



奈良県感染症情報

平成31年 第1週(12月31日～1月6日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(12月)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	7.38	(9.65) ↑	→	→	↑↑
2	感染性胃腸炎	1.62	(6.15) ↓	↓	↓	↓
3	水痘	0.21	(0.38) ↓	↓	↓	↑↑
4	咽頭結膜熱	0.18	(0.44) ↓	↓	↓	→
4	A群溶連菌咽頭炎	0.18	(1.94) ↓	↓	↓	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

第1週は年末年始で休診の医療機関が多く、患者報告数は減少しています。インフルエンザの報告数は吉野保健所管内、内吉野保健所管内で増加しています。特に20歳以上の報告数が52週の上になっっています。県全体では年齢を問わず報告数が増加することが予想されます。人が多く集まる場所へ出かける際はマスクを着用し、帰宅後はうがい、手洗いをこまめに実施をお願いします。乾燥しやすい室内では加湿器などで適切な湿度(50～60%)を保つことも効果的です。また、体調不良を感じたときは早めに医療機関を受診するように心がけましょう。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成30年12月) ◆

*ウイルス分離同定日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
アデノ	8			1	急性肺炎(1)
アデノ	40/41	1			感染性胃腸炎(1)
インフルエンザ AH1pdm	1				インフルエンザ(1)
インフルエンザ AH3		2			インフルエンザ(2)
エンテロ	D68	1	4		気管支炎(2)、感染性胃腸炎(1)、不明熱・川崎病疑い(1)、喘息性気管支炎(1)
コクサッキー	B4	1	1		鼻咽頭炎(1)、不明熱(1)
ライノ	A	1	1		鼻咽頭炎(1)、発疹症(1)
ライノ	C	1	2		咽頭炎(1)、気管支肺炎(1)、上気道炎(1)



奈良県感染症情報

平成31年 第2週(1月7日～1月13日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザ警報発令です!

今週の概要

- 小児科外来情報
- 12月報(月単位)報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	31.45	(7.38) ↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	8.41	(1.62) ↑	↑	→	↑↑
3	A群溶連菌咽頭炎	2.00	(0.18) →	→	→	↓
4	突発性発しん	0.53	(0.12) ↑	↑	↑	→
5	水痘	0.35	(0.21) →	→	↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの定点当たり報告数が警報基準値「30」を越え、警報発令となりました。県内全域で報告数が増加しており、特に中和保健所管内西部地域、吉野保健所管内からの報告数が多くなっています。インフルエンザにかからないために①外出後の流水・石けんによる手洗い②適度な湿度(50～60%)の保持③体の抵抗力を高めるため、十分な栄養とバランスのとれた栄養摂取④人混みや繁華街への外出を控えることを心がけましょう。インフルエンザウイルスにはアルコールによる消毒も有効です。また、咳やくしゃみ等の症状のある時はマスクを着用し、体調不良を感じたときは早めに医療機関を受診するように心がけましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

正月明けの診療からインフルエンザが急増しております。迅速検査では全てA型です。発熱初期には、咳の症状がほとんど無く、嘔気や嘔吐を伴うこともあり、今シーズン非常に少なかった感染性胃腸炎が最近増加していますので特に念頭においての診断が必要です。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザが増加。学童から中・高学年を中心、すべてA型。消化器症状を伴う例は少ない印象。感染性腸炎が流行、軽度の嘔吐・軟便程度の嘔症例が多い。ノロ・ロタ陽性例は少ない。その他の登録疾患は少ない。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

A型インフルエンザの流行が続いている。熱性けいれん、気管支炎、異常行動を伴う症例もある。また抗インフルエンザ薬未使用例で、熱が8日間続いた1歳児もいた。家族内感染も多く、強い感染力がつかう。嘔吐、発熱で発症、水様下痢の遷延する胃腸炎も多くなった。各種迅速検査では反応しなかった。また手足口病様の発疹症で、回復期に手足の皮膚剥離のみられた学童が複数名いた。ウイルスの同定はできていない。



奈良県感染症情報

平成 31 年 第 3 週 (1 月 14 日 ~ 1 月 20 日)
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:07-44-47-3183

インフルエンザ警報発令中です!

今週の概要

- インフルエンザの施設内感染拡大防止について

◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位 5 疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	38.13	(31.45) ↑↑	↑↑	↑↑	↑
2	感染性胃腸炎	7.85	(8.41) ↗	↑	→	→
3	A 群溶連菌咽頭炎	1.03	(2.00) ↘	↓	↓	↑↑
4	RS ウイルス感染症	0.41	(0.18) →	→	↗	↓
5	突発性発しん	0.38	(0.53) →	↗	→	→

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去 5 週間平均数と比べたときの变化 ↑↑ 急増、↑ 増加、↗ やや増加、→ 横ばい、↘ やや減少、↓ 減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告数がさらに増加しています。体調不良を感じたら、無理せず早めに医療機関を受診し、医師の指示を守るようにしてください。周囲の人につうつさないよう、咳やくしゃみの症状のある時はティッシュやハンカチで口を覆ったり、マスクを着用して、使用済みのティッシュやマスクはすぐにゴミ箱に捨てましょう。また、乳幼児ではまれに急性脳症を、高齢者や免疫力の低下している方では肺炎を伴う等、重症になることがありますので、体調不良を感じた際は乳幼児や高齢者との密接な接触を避けましょう。

◆ インフルエンザの施設内感染拡大防止について ◆

インフルエンザは感染力が非常に強いことから、ウイルスが施設内に持ち込まれないようにすることが施設内感染防止の基本です。

- 利用者の健康状態の把握**
65 歳以上の高齢者や心臓や腎臓、呼吸器等の慢性疾患の有無について把握しておきましょう
- 利用者へのワクチン接種及び一般的な予防の実施**
利用者の日常の健康管理に注意し、咳エチケットやこまめな手洗いや、一般的な予防に留意しましょう
- 施設内出入りする人の把握と対応**
インフルエンザの流行期は、施設の玄関に掲示を行ったり、家族等にはあらかじめ説明を行ったりするなどの、面会者に対して理解を求めたための活動が必要で
- 施設従業者へのワクチン接種と健康管理**
外部との出入りの機会の多から、施設従業者が最も施設にウイルスを持ち込む可能性が高く、重症化しやすい方々に密接に接する機会が多いことを認識しましょう
- 施設の衛生の確保、加湿器等の整備**

参考 URL: 厚生労働省 平成 30 年度 今冬のインフルエンザ総合対策について
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/inf/luenza/index.html>



咳エチケット: 政府広報オンラインより転載



奈良県感染症情報

平成 31 年 第 4 週 (1 月 21 日 ~ 1 月 27 日)
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:07-44-47-3183

インフルエンザ警報発令中です!

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位 5 疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	41.51	(38.13) ↑	↑	↑	↗
2	感染性胃腸炎	8.18	(7.85) ↗	↗	↗	↘
3	A 群溶連菌咽頭炎	2.00	(1.03) ↗	↗	↗	↓
4	RS ウイルス感染症	0.79	(0.41) ↑	↗	↑	↓
5	水痘	0.62	(0.12) ↑	↑	↗	↑↑

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去 5 週間平均数と比べたときの变化 ↑↑ 急増、↑ 増加、↗ やや増加、→ 横ばい、↘ やや減少、↓ 減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告数が第 3 週よりもさらに増加しています。特に県北部地域、中和保健所管内西部地域で大きく増加しています。保健研究センターの検査では、昨年は A/H1pdm09 型を多く検出していましたが、今年 1 月に入ってから A/H3 (香港型) を検出しています。インフルエンザは一度感染していても種類が異なると再感染するため、何度も発症することがあります。感染経路は咳やくしゃみからの飛沫感染と、飛沫の付着物に触れた手指を介した接触感染ですので、こまめな手洗いと咳エチケットを行い、感染予防対策に努めましょ

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区 (矢温医院)

インフルエンザが大流行しています。迅速検査ではほぼ A 型です。今シーズンは 10 才以上から成人に感染が多い印象です。抗インフルエンザ剤はいずれも効果はあるようです。嘔吐と下痢の感染性胃腸炎もや増加しています。

中部地区 (岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザが急増。すべて A 型。報道されているような重症例はないが感染力は強い印象。感染性胃腸炎も流行中。ノロ様で嘔吐・軟便と合わせて微熱・頭痛を訴える例も多い。他にアデノ、水痘が増加してきた。姉がアデノ陽性例の発熱遷延の 2 歳児で (当該児アデノ弱陽性) 4 日くらいに BCG 跡に発赤を認めた MCLS 疑い例があった。

南部地区 (南奈良総合医療センター小児科)

A 型インフルエンザの流行が続く。学級閉鎖や家族内感染例 (成人含め) も多い。熱性けいれん、肺炎合併もみられる。嘔吐・下痢の胃腸炎も増加している。一部症例ではノロウイルス陽性例あり。胃腸炎関連はいれんも散見され注意を要する。



奈良県感染症情報

平成31年 第5週(1月28日～2月3日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(1月)
- 保健研究センターより、2月「百日咳」

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	35.40	(41.51)	↗	↗	↘
2	感染性胃腸炎	6.56	(8.18)	→	↗	→
3	A群溶連菌咽頭炎	2.21	(2.00)	↑	↑	→
4	咽頭結膜熱	0.35	(0.35)	→	↗	↘
5	手足口病	0.21	(0.18)	→	↓	↗

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

インフルエンザの流行警報発令中です。特に中和保健所管内東部地域では前週よりも増加しています。まれに急性脳炎を起こし重症化することがあり、県内では第5週だけでインフルエンザウイルスA型による急性脳炎が3例、B型によるものが1例報告されています。感染経路は咳やくしゃみからの飛沫感染と、飛沫の付着物に触れた手指を介した接触感染です。こまめな手洗いと咳エチケットを行い、感染予防対策に努めましょう。咳エチケットは特に電車や学校、職場など人が多く集まる場所で行うことが大切です。

A群溶連菌咽頭炎の報告数が増加しています。中和保健所管内西部地域では、定点当たり報告数が8.5と高くなっており、警報開始基準値18Jを超えています。

◆病原体(ウイルス)検出情報(平成31年1月)◆

検出病原体	*ウイルス分離開同定日での集計結果		
	北部	中部	南部
EB			1
RS		1	
アデノ	2	1	
アデノ	3	1	
アデノ	5	1	
インフルエンザ	AH1pdm09	5	10
インフルエンザ	AH3	1	2
エコー	11	1	
コクサッキーA群	4	1	
コクサッキーA群	6		2
コクサッキーA群	10		1
水痘・帯状疱疹			1
ノロ	GI.4	1	
ノロ	GII.2	1	
ノロ	GII.4	1	
ヘルペス	6B	1	
ライウイルス		5	2
ライウイルス	A	1	3
ライウイルス	C		2



奈良県感染症情報

平成31年 第6週(2月4日～2月10日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザ警報発令中です!

今週の概要

- 小児科外来情報
- 1月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	20.38	(35.40)	↘	↘	↘
2	感染性胃腸炎	6.88	(6.56)	→	↗	↘
3	A群溶連菌咽頭炎	1.94	(2.21)	↗	→	↗
4	咽頭結膜熱	0.59	(0.35)	↑	↑	↑
5	水痘	0.35	(0.12)	↗	↗	↘

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

インフルエンザの報告数は先週に比べて減少しましたが、「10」を下回るまで警報は継続します。保健研究センターの検査では、昨年はAH1pdm09型を多く検出しましたが、今年1月に入ってからAH3(香港型)を検出しています。今のところB型は検出されていません。同じシーズンの中でA型インフルエンザに2回かかったり、A型和B型両方にかかったりすることがあります。手洗いの励行、咳エチケットを心がけましょう。

感染性胃腸炎の報告数は横ばいです。感染性胃腸炎の原因病原体は数多くありますが、春先には口タウイルスによる感染性胃腸炎が増加します。子どもから親へと感染が広がることもあるため、おむつは適切に処理し、感染を拡げないように注意して下さい。

◆小児科外来情報◆

北部地区(矢追医院)

インフルエンザは、2月第2週後半から減少が顕著になってきています。ただし、今シーズン迅速検査で2回A型陽性の方もあります。今後は、B型が増加してくる可能性があります。

感染性胃腸炎は、流行になっておりませんが増加しています。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

インフルエンザがやや減少に転じ外来数は減少傾向。

現在まですべてA型、2度罹患の例は現在までのところなし。

重症経過例はなかったが、ゾフルーザ内服後も解熱しない例があった。

感染性腸炎も持続、幼児の検査例で、ロタ1例(ワクチンなし)、ノロ陽性例も数例あった。

その他、水痘がわずか。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

A型インフルエンザの流行は続くも、流行のピークは越えた感あり。B型インフルエンザはまだない。今シーズン中に2回目のA型インフルエンザに罹患した幼児あり。

胃腸炎も減少してきている。



奈良県感染症情報

平成 31 年 第 7 週 (2 月 11 日 ~ 2 月 17 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- ・ 麻しん(はしか)に注意しましょう

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	8.38	(20.38) ↓	↓	↓	↓
2	感染性胃腸炎	5.06	(6.88) ↓	↓	→	→
3	A群溶連菌咽頭炎	2.00	(1.94) →	→	→	↑↑
4	咽頭結膜熱	0.62	(0.59) ↑	↗	↗	→
5	RSウイルス感染症	0.29	(0.32) ↓	↓	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告数は先週に続き減少していますが、未だ定点当たり報告数が 8.38 と高い値になっています。手洗いや咳エチケットを心がけ、感染予防に努めましょう。
A群溶連菌咽頭炎や咽頭結膜熱の報告数は横ばいですが、中和保健所管内西部地域では他の地域よりも多くなっています。どちらも、患者の咳やくしゃみによって飛び散る飛沫を口や鼻から吸い込んで感染します。また、患者と握手・だっこなど直接接触した場合や、患者の病原体の付着した手でドアノブ・遊具・手すりなどに触れ、間接的に接触した場合に感染する事があります。手洗い、うがい、タオル・おもちゃの共用は避けるなど、対策を行いましょう。

◆ 麻しん(はしか)に注意しましょう ◆

大阪市の商業施設などを中心に麻しん患者の発生が続いています。
麻しんウイルスの感染力は非常に強く、免疫を持っていない場合は、麻しん患者と接触した場合、ほぼ 100% 発症すると言われています。

【症状】

感染すると約 10 日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、2~3 日熱が続いた後、39 度以上の高熱が発症が出現します。症状が出る 1 日前(発疹出現の 3~5 日前)から発疹出現後 4~5 日目くらいまでは、周りの免疫が弱い人や免疫がない人に感染させてしまいます。

麻しんを疑った症状が現れた場合は無理に動かさず、事前に医療機関に連絡の上、指示に従い受診してください。

以前麻疹にかかったことが記録等により確かでない方や、ワクチン接種を 1 回の

みしかしていない方は、ワクチン接種を十分検討する必要があります。

大阪市内の商業施設での集団発生に関する情報は下記を参照ください

大阪府 HP: <https://www.pref.osaka.lg.jp/hodo/index.php?site=fumin&pageId=33878>

大阪市 HP: <http://www.city.osaka.lg.jp/kenko/page/0000461659.html>



奈良県感染症情報

平成 31 年 第 8 週 (2 月 18 日 ~ 2 月 24 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- ・ 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	6.12	(5.06) →	↘	→	→
2	インフルエンザ	5.98	(8.38) ↓	↓	↓	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	2.18	(2.00) →	↗	→	↗
4	RSウイルス感染症	0.59	(0.29) ↗	↑	↗	→
5	咽頭結膜熱	0.44	(0.62) →	→	→	↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告は先週から減少し、定点当たり報告数が 5.98 となりました。しかし、定点当たり報告数が 1.0 を下回るまでは注意が必要です。手洗いや咳エチケット(マスク)を心がけ、感染予防に努めましょう

感染性胃腸炎が少し増加しています。春はロタウイルスによる感染性胃腸炎が増加します。ロタウイルスは通常、乳幼児を中心に流行し、症状は発熱や嘔吐、白色の水様便を特徴とする下痢です。患者の便や嘔吐物には大量のウイルスが含まれています。トイレ後やおむつ交換後、食事の前はしっかりと手を洗いましょう。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(A群溶連菌咽頭炎)は中和保健所管内西部地域で特に多い状況が続いています。

◆ 小児科外来情報 ◆

【北部地区(矢追医院)】

大流行していたインフルエンザは先々週あたりから減少が続いています。迅速検査では全て A 型で、今季では B 型陽性は 1 名だけです。B 型の増加傾向が無いためこのまま終息しそうです。感染性胃腸炎も少なく、目立った感染症はありません。

【中部地区(両本内科こどもクリニック)】

インフルエンザは減少したがまだ持続して見られる。現在まですべて A 型、2 度罹患例、重症例はなかった。
感染性腸炎も持続。他に A 群溶血性連鎖球菌がわずかに、
口内炎なく四肢にわずかな水疱があるのみのコクサッキー類似(手足口病?)と思われる例があった。

【南部地区(奈良県総合医療センター小児科)】

インフルエンザ患者数は減少してきた。B 型はないが A 型に 2 回罹患した幼児あり。
胃腸炎はノロ、ロタが検出されている。ワクチン接種済乳児のロタウイルス腸炎は軽症に経過した。手掌、足底ではなく前腕、下腿に水疱のみられる手足口病が幼児~学童で数名みられた。



奈良県感染症情報

平成31年 第9週(2月25日～3月3日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(2月)
- 気になる話題(今シーズンのインフルエンザについて)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	感染性胃腸炎	6.50	(6.12) →	→	→	→
2	インフルエンザ	4.56	(5.98) ↓	↓	↓	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	1.47	(2.18) ↓	↓	→	→
4	RSウイルス感染症	1.15	(0.59) ↑↑	↑↑	↑	→
5	咽頭結膜熱	0.56	(0.44) →	→	↗	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告数は先週に引き続き減少していますが、定点あたり報告数が1.0を下回るまでは注意が必要です。
 RSウイルス感染症の報告数は増加しており、特に中和保健所管内西部地域で報告数が多くなっています。
 インフルエンザもRSウイルス感染症も、感染経路はともに飛沫感染と接触感染です。うがい、手洗いや咳エチケットなど予防対策に努めましょう。
 感染性胃腸炎の報告数が増加しています。特に中和保健所管内で増加しており、年齢を問わず報告があります。調理を行う前や、食事の前、トイレに行った後など、流水と石けんによるこまめな手洗いを行いましょう。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成31年2月) ◆

* ウイルス分離同定日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
ライノ A		2			突発性発疹(1)、肺炎(1)
ライノ C	2				肺炎(1)、鼻咽頭炎(2) 肺炎・血球貪食症候群疑い(1)※
アデノ I		1			肺炎・血球貪食症候群疑い(1)※
インフルエンザ AH1pdm	2	6			インフルエンザ(7)、上気道炎(1)
インフルエンザ AH3	7	7			インフルエンザ(13)、 インフルエンザ A(1)

※ 重複感染



奈良県感染症情報

平成31年 第10週(3月4日～3月10日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 2月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	感染性胃腸炎	6.29	(6.50) →	→	→	↑↑
2	インフルエンザ	2.76	(4.56) ↓	↓	↓	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	2.41	(1.47) ↗	↗	↗	↓
4	RSウイルス感染症	0.91	(1.15) ↑	↑	↑	→
5	咽頭結膜熱	0.56	(0.56) →	→	→	↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告数は第9週より減少していますが、定点あたり報告数が1.0を下回るまでは注意が必要で、引き続き、うがい、手洗いや咳エチケットなど予防策に努めてください。
 A群溶連菌咽頭炎は報告数が増加しており、特に中和保健所管内西部地域では定点あたり報告数が7.67と高い値になっています。治療には抗生物質が有効ですので、突然の発熱・咽頭痛があった時は早めに医療機関を受診しましょう。
 感染性胃腸炎の報告数は横ばいですが、報告数が多い状態が続いています。春先にはロタウイルスによる感染性胃腸炎が増加します。子どもから親へ感染することもあるため、おむつの交換後は必ず流水と石けんによる手洗いを行いましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

【北部地区(矢追医院)】

この2週間でインフルエンザは激減し、そろそろ終息を迎えそうです。現在目立った感染症は無く、感染性胃腸炎も僅かです。伝染性紅斑や手足口病等があります。

【中部地区(岡本内科子どもクリニック)】

インフルエンザは散発、まだ終焉ではない。
 寒暖の差がまだ大きい状況の中、乳幼児を主に数例見られた。
 A型2度罹患も数例あった。B型はまだ見られない。
 マイコプラズマ様し験像を示した8歳女児があった。軽症。
 喘鳴の乳児でhMPV感染が数例あり、地域で流行中との保護者の言あり。
 感染性腸炎が持続してみられる。ノロ陽性例もあった。ロタはなかった。

【南部地区(奈良県総合医療センター小児科)】

インフルエンザの発生は散発的になった。胃腸炎は急増している。
 ノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルス等、各種胃腸炎がみられる。ロタウイルスワクチン接種幼児で胃腸炎関連はいずれも群発例もいた。





奈良県感染症情報

平成31年 第11週(3月11日～3月17日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 海外渡航を予定されている皆様へ

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	7.00	(6.29) →	↗	→	↗↗
2	インフルエンザ	2.47	(2.76) ↓	↓	↓	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	2.29	(2.41) ↓	→	↗	↘
4	RSウイルス感染症	1.00	(0.91) ↑	↑	↗	→
5	突発性発しん	0.44	(0.21) ↑	↑	↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

インフルエンザの報告数は、横ばいです。定点あたり報告数が1.0を下回るまでは注意が必要ですので、引き続きがたい手洗いや咳エチケットなど、予防対策を行しましょう。
感染性胃腸炎の報告数は、第10週よりも増加しています。県内の保育所ではロタウイルスによる集団感染性胃腸炎事例が発生しています。ロタウイルスは感染力が非常に強く、感染者の便や嘔吐物には大量のウイルスが含まれます。トイレの後や食事の前などこまめな手洗いを心がけ、おむつの交換後は必ず流水と石けんによる手洗いを行しましょう。また、消毒薬は、アルコールでは効き目が不明のため、次亜塩素酸ナトリウム(家庭用塩素系漂白剤)を用いましょう。

◆海外渡航を予定されている皆様へ◆

2019年のゴールデンウィークは10連休となる方もいるため、海外へ渡航される方が多いことが予想されます。海外では、日本では現在あまり流行していない病気や、日本で発生していない、動物や蚊・マダニなどが媒介する病気が流行していることがあり、注意が必要です。海外で感染症にかからないようにするためには、正しい知識と予防法を身に付けることが大切です。

●定期の予防接種について

予防接種スケジュールを確認の上、年齢相応のものがすべて終了しているか、母子手帳などで海外渡航前に必ず確認してください。

参考: 国立感染症研究所 日本の予防接種スケジュール
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/vaccine-j/2525-v-schedule.html>

●予防接種の計画は余裕をもって早めに行いましょう

- ▶ 予防接種の種類によっては、複数回接種が必要のあるものがあります。
- ▶ 黄熱予防接種のように、国や地域によってはたとえその地域で流行がなくても、受けていなければ入国できなくなるものもあります。
- ▶ 必要な予防接種は、渡航先、渡航期間、渡航形態、自身の年齢、健康状態、予防接種履歴などによって異なります。事前に渡航先の感染症情報を収集しましょう。
- ▶ なるべく早く(できるだけ出発3か月前から)、トラベルクリニック、渡航外来等の医療機関で、接種するワクチンの種類と接種日程の相談をしてください。

参考: 厚生労働省検疫所 FORTH <https://www.forth.go.jp/index.html>



奈良県感染症情報

平成31年 第12週(3月18日～3月24日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	5.00	(7.00) →	→	↗	→
2	A群溶連菌咽頭炎	1.56	(2.29) ↓	↘	↘	↓
3	インフルエンザ	1.51	(2.47) ↓	↘	↘	→
4	RSウイルス感染症	0.88	(1.00) →	↑	→	→
5	突発性発しん	0.29	(0.44) →	↑	↘	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

インフルエンザの報告数は第11週より減少していますが、定点あたり報告数が1.0を下回るまでは注意が必要ですので、引き続き、手洗いや咳エチケットを心がけ、感染予防に努めてください。
A群溶連菌咽頭炎の報告数は中和保健所管内西部地域で多い状況が続いています。突然の発熱や咽頭痛があった時は早めに医療機関を受診しましょう。治療には抗生物質が有効ですので、医師の指示に従って服薬してください。また、患者との接触を介して感染するため、患者との濃厚接触は避け、基本的な感染症予防の手洗い・うがいを行きましょう。

❖小児科外来情報❖

北部地区(矢温医院)

インフルエンザは一旦減少したが、先週は再び増加している。B型は今シーズン迅速検査で2例のみである。感染性胃腸炎は流行の拡大には至っていない。伝染性紅斑が時々みられる。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザはかくなり減少したがまだ散発にあり。
A型のみ、B型は見られなかった。
乳児で喘鳴の例がやや多くMMPV陽性例があった。RSはなかった。
感染性腸炎は持続、ノロ陽性例もあり。ロタ陽性例はなかった。
水痘、A群溶血性連鎖球菌、アデノウイルス感染症がみられた。
1歳女児で手足口病があった。手・足・膝に水疱、口内炎なし、発熱なし。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

インフルエンザは散見のみ、流行は落ち着いてきた。
胃腸炎の流行が続いている。ノロウイルス、ロタウイルス、他複数ウイルスの流行が混在している。
特にG市N保育所ではロタウイルス集団感染もみられた。
アデノウイルス感染が増加傾向にある。





奈良県感染症情報

平成31年 第13週(3月25日～3月31日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(3月)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	4.62	(5.00)	→	→	→
2	A群溶連菌咽頭炎	1.24	(1.56)	→	→	→
3	インフルエンザ	1.05	(1.51)	→	→	→
4	RSウイルス感染症	0.97	(0.88)	→	→	↑↑
5	突発性発しん	0.35	(0.29)	→	↑	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告数は第12週より減少しています。定点当たり報告数が1.0を下回るまで、あと少し感染予防に努めてください。RSウイルス感染症の報告数は横ばいですが、中和保健所管内西部地域では定点当たり報告数が3.3と高い状態です。インフルエンザもRSウイルス感染症もともに感染経路は飛まつ感染と接触感染です。マスクの着用やこまめな手洗いなど、予防対策を心がけましょう。

感染性胃腸炎の報告数は横ばいですが、春先はロタウイルスによる感染性胃腸炎が流行する時期です。通常は乳幼児を中心に流行しますが、子どもから親へと感染することもあるため、おむつは適切に処理し、処理後は流水と石けんによる手洗いを行って感染を拡げないように注意してください。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成31年3月) ◆

検出病原体	* ウイルス分離同定日での集計結果		
	北部	中部	南部
Δ群ロタ	1	2	2
A群ロタ		2	
Δ群ロタ		1	
アデノ	1		
インフルエンザ	1	2	
インフルエンザ	4	9	
インフルエンザ	1		
コサッキーA群			1
サポ		1	
ノロ		1	
G II.4		1	
ハルボ		1	
ヒトメタニューモ	2	2	
ライノ		4	



奈良県感染症情報

平成31年 第14週(4月1日～4月7日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	6.56	(4.62)	→	→	→
2	A群溶連菌咽頭炎	1.59	(1.24)	→	→	↑↑
3	インフルエンザ	0.85	(1.05)	→	→	→
4	RSウイルス感染症	0.56	(0.97)	→	→	→
5	突発性発しん	0.32	(0.35)	→	→	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎の報告数が増加しています。特に中和保健所管内西部地域で急増しており、定点あたり報告数が13.5と高くなっています。春先に流行するロタウイルスによる胃腸炎が増加しているとみられ、保健研究センターの検査でもロタウイルスの検出が増えています。乳幼児に多い感染ですが、年長児や大人も感染することがあります。感染者の便には大量のウイルスが含まれていますので、おむつの交換後やトイレの後には流水と石けんによる丁寧な手洗いをし、感染を拡げないようにしてください。

これから気温が上がってくると、夏の感染症(咽頭結膜熱や手足口病、ヘルパンギーナ)が増加します。日頃から基本的な感染症予防対策の手洗いやうがいを中心に行いましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

【北部地区(矢追医院)】

気温も暖かくなり、春休み中でも感染症は少なくなっています。インフルエンザはほぼ無くなりました。保育園児で嘔吐と下痢の感染性胃腸炎が増えています。迅速検査ではロタウイルスが陽性の子が多いです。当院ではロタウイルスワクチン接種済みの方が多く、嘔吐はほぼ無く、下痢が主体です。RSウイルスによる気管支炎も出ています。

【中部地区(岡本内科こどもクリニック)】

インフルエンザは殆ど見られなくなりましたがインフルエンザBがまだ稀にみられる。

感染性胃腸炎が続いてみられる。ノロ様、軽症。

幼児でhMPV 気管支炎が流行中、検査陽性例もあり。

早期の発熱、乾性、頻回の咳嗽が特徴的印象。

アデノウイルス咽頭炎も流行中。

手足口病があったがその後増加は見られない。

【南部地区(奈良県総合医療センター小児科)】

インフルエンザはA型、B型ともまだ散見されている。ロタウイルスを中心とした感染性胃腸炎は続いている。

遷延する呼吸器症状でヒトメタニューモウイルス陽性例が増加。特に乳幼児は重症化する例があり注意を要する。

咽頭結膜熱がみられ始めた。





奈良県感染症情報

平成31年 第15週(4月8日～4月14日)
奈良県感染症情報センター(奈良保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 海外で注意したい動物由来感染症
- 3月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	8.88	(6.56) ↑	↑	↗	↘
2	A群溶連菌咽頭炎	2.38	(1.59) ↗	→	↗	↗
3	インフルエンザ	0.98	(0.85) ↘	↓	↘	↓
4	咽頭結膜熱	0.47	(0.24) ↗	→	↑	↓
5	突発性発しん	0.41	(0.32) ↗	↑	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

感染性胃腸炎の報告数が増加しています。県内北部地域、中部地域で増加しており、特に中和保健所管内西部地域では定点あたり報告数が17.0と高い状態です。トイレの後や調理前、食事の前などこまめな手洗いを心がけ、感染を拡げないように注意してください。

A群溶連菌咽頭炎の報告数が増加しており、特に中和保健所管内西部地域で報告数が多くなっています。A群溶連菌咽頭炎は患者との接触を介して感染するため、家庭内や学校など集団での感染も見られます。患者との濃厚接触は避け、基本的な予防法の手洗い・うがいを励行しましょう。

◆海外で注意したい動物由来感染症◆

海外旅行では日本国内で発生しない感染症にかかるリスクがあります。命に危険が及ぶ感染症もあるので、事前に旅行先の情報を収集し、予防に努めましょう。

- 狂犬病**
発症した犬、猫、アライグマ、キツネ、コウモリなどに含まれるなど、唾液中のウイルスが体内に入って感染します。身近な動物であっても海外ではむやみに動物に触らないようにしましょう。
 - 中東呼吸器症候群(MERS)**
ヒトからラクダが感染源の一つとして有力視されていますが、患者家族や医療施設内でのヒトからヒトへの感染もあります。MERSの流行地域である中東地域に渡航する際は、ラクダとの接触を避け、ラクダの生乳も飲まないようにしましょう。
 - 蚊媒介感染症**
病原体を保有する蚊に刺されることによって起こる感染症のことで、デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症などがあります。流行地域では蚊よけ剤の使用や、長袖・長ズボンを着用して肌の露出を少なくし、蚊に刺されないようにしましょう。
- 帰国時に発熱や咳、下痢、具合が悪いなど体調に不安がある場合は、空港・港に設置されている検疫所に相談しましょう。感染してから発症するまでの期間が数日から長いものでは3か月以上の感染もあり、しばらくしてから具合が悪くなることもあります。その際は、医療機関を受診し、渡航先や滞在期間、現地での飲食状況、渡航先での職歴や活動内容、動物との接触の有無、ワクチン接種歴などについて必ず伝えてください。

参考:厚生労働省 動物由来感染症

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuisite/bunya/kenkou/iryuu/kenkou/kekko/kekko-kansenshou18/index.html>



奈良県感染症情報

平成31年 第16週(4月15日～4月21日)
奈良県感染症情報センター(奈良保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	8.94	(8.88) ↗	↑	↗	→
2	A群溶連菌咽頭炎	3.44	(2.38) ↑	↑	↑	↗
3	インフルエンザ	1.95	(0.98) ↗	↗	↑	↓
4	RSウイルス感染症	0.74	(0.38) →	→	→	↓
5	咽頭結膜熱	0.56	(0.47) ↑	↗	↗	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

インフルエンザの報告数が増加しています。インフルエンザは、一度感染していても種類が異なると再感染するため、何度も発症することがあります。咳やくしゃみ等の症状がある人はマスクを着用するなど、咳エチケットを心がけてください。

A群溶連菌咽頭炎の報告数が増加しており、中和保健所管内西部地域と吉野保健所管内では定点あたり報告数が警報開始基準値の「8」を超えています。突然の発熱や咽頭痛があった時は早めに医療機関を受診しましょう。治療には抗生物質が有効です。また、患者との接触を介して感染するため、患者との濃厚接触は避け、基本的な感染予防の手洗い・うがいを行いましょ。

◆小児科外来情報◆

北部地区(矢追医院)

保育園児とその家族でロタウイルスの胃腸炎が流行しています。ワクチン接種済み者も発症している方がいますが、症状は軽度の方が多く印象です。暖かくなり手足口病や咽頭結膜熱等夏かぜも出てきています。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は連休前のためかやや増加。
インフルエンザを含め種々の感染症が雑多にみられる。
インフルエンザは種かであるが再び散見され、B型に交じってまだA型も見られた。
乳児にhMP肺炎が流行中。現状調査では発生動向にUp 出来ない状況。
感染性腸炎が流行。ノロウイルス様が多い、ロタウイルスもあつた。
A群溶血性連鎖球菌、アデノウイルス感染症もみられた。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

感染性胃腸炎の流行が続く。ロタウイルス陽性例が多く、保育所や成人も含めた家族内感染もみられる。ヒトメタニューモウイルス感染症も散見される。入院必要例も多い。
B型のインフルエンザが増加傾向にある。またA群溶連菌、アデノウイルス咽頭炎も多い。

次週報(第17週)は、令和元年5月8日(水)に発行いたします。



奈良県感染症情報

平成31年 第17週(4月22日～4月28日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- マダニに注意しましょう

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	11.41	(8.94) ↑	↑	↑	→
2	A群溶連菌咽頭炎	2.62	(3.44) ↗	↗	→	↑
3	インフルエンザ	2.00	(1.95) ↑	↑	→	→
4	RSウイルス感染症	0.76	(0.74) →	↓	↗	↓
5	咽頭結膜熱	0.65	(0.56) ↑	→	↑↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

感染性胃腸炎の報告数が増加しています。基幹定点からの報告によると、ロタウイルスによる感染性胃腸炎が増加しています。ロタウイルスの感染者の便には大量のウイルスが含まれていますので、おむつは適切に処理し、処理後は流水と石けんによる丁寧な手洗いをし、感染を拡げないように注意してください。

インフルエンザの報告数は横ばいですが、この時期としては報告数が多い状態が続いています。外出後は手洗いをし、咳やくしゃみなどの症状があるときはマスクを着用しましょう。体調不良を感じた際は、早めに医療機関を受診するようにしてください。

◆マダニに注意しましょう◆

マダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まります。マダニがウイルスや細菌などを保有している場合、咬まれた人が重症熱性血小板減少症候群(SFTS)やダニ媒介脳炎、日本紅斑熱などの病気を発症することがあります。山や草むらでの野外活動の際はダニに注意しましょう。

▶ マダニに咬まれないために

- ◆ 長袖・長ズボンを着用する(シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や靴の中に入れる、または登山用スパッツを着用する)
- ◆ 足を完全に覆う靴を着用する(サンダル等は避ける)
- ◆ 帽子・手袋の着用や、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくする
- ◆ 明るい色の服を着用する(マダニを目視で確認しやすいため)
- ◆ 虫除け剤を使用する

屋外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないか確認して下さい。特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部(髪の毛の中)などがポイントです。

▶ マダニに咬まれたときは

- ◆ 吸血中のマダニに気が付いた際は、無理に引き抜こうとせず、医療機関(皮膚科など)で処置(マダニの除去、洗浄など)をしてもらいましょう
- ◆ マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい

厚生労働省ダニ媒介感染症: <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>



奈良県感染症情報

平成31年 第18週(4月29日～5月5日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.79	(1.41) ↓	→	→	→
2	A群溶連菌咽頭炎	0.47	(2.62) ↓	→	→	→
3	咽頭結膜熱	0.21	(0.65) ↓	→	→	↑↑
4	インフルエンザ	0.18	(2.00) ↓	→	→	↓
5	突発性発しん	0.09	(0.24) ↓	→	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

第18週は連休で休診の医療機関が多く、患者報告数が少なくなっています。これから暑くなってくると、咽頭結膜熱や手足口病、ヘルパンギーナといった、夏に流行する感染症が増加してきます。タオルやおもちゃの共用から感染が広がる可能性があるため、できる限りの共用は避けるようにしてください。また、石けんと流水による手洗いを習慣づけましょう。

季節の変わり目の気温差により体調を崩しやすい時期です。外出後の手洗いや、十分な休養とバテノスのとれた栄養摂取を心がけ、日頃から感染症予防に努めましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(矢追医院)

ほぼ無くなっていったインフルエンザが再び増加してきました。迅速検査ではA型で、症状は冬季の流行期に比し軽症のように感じます。ロタウイルスによる感染性胃腸炎が保育園児を中心に流行が続いています。ワクチン接種済の子は、従来軽度の下痢程度の発症でしたが、今期は発熱、嘔吐の症状発現がありワクチンの効果が少ない様です。手足口病やヘルパンギーナなど夏か夏かぜがでてきています。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザは見られなくなりました。hMPVの乳児例が一部は紹介入院した。感染性腸炎が持続、ほとんどノロ様。ロタもごく僅かにあった。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

ヒトメタニューモウイルス感染症の流行が続く。ロタウイルス腸炎は減少、かわってアデノウイルス腸炎が増加してきた。B型インフルエンザはまだ散見されている。溶連菌感染症の流行も続いている。





奈良県感染症情報

令和元年 第19週(5月6日～5月13日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 病原体(ウイルス)検出情報(4月)
- 4月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	感染性胃腸炎	6.94	(1.79)	→	→	→
2	A群溶連菌咽頭炎	1.62	(0.47)	→	→	→
3	咽頭結膜炎	0.76	(0.21)	↑↑	↑↑	↓
4	突発性発しん	0.47	(0.09)	↑	↑	↓
5	手足口病	0.44	(0.06)	↑↑	↑↓	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

感染性胃腸炎の報告数が多くなっており、年齢を問わず報告があります。食品は十分に加熱して食べるようにし、調理前や食の前、トイレの後などはこまめな手洗いをし、予防に努めましょう。咽頭結膜炎の報告数が増加しており、特に中和保健所管内西部地域からの報告が多くなっています。咽頭結膜炎は発熱、咽頭痛、結膜炎が主な症状の疾患で、感染経路は飛まつ感染と接触感染です。うがい、手洗いを心がけ、タオルの共用は避けるようにしてください。

◆小児科外来情報(臨時)◆

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

当地区小学校でインフルエンザB型による学級閉鎖があった。

◆病原体(ウイルス)検出情報(平成31年4月)◆

*ウイルス分離同定日での集計結果

検出病原体	臨床診断名		
	北部	中部	南部
A群ロタ	G2	5	感染性胃腸炎(1)、感染性胃腸炎・ロタウイルス腸炎(4)
A群ロタ	G3	10	感染性胃腸炎(1)、ロタウイルス胃腸炎(1) 感染性胃腸炎・ロタウイルス腸炎(8)
A群ロタ	G9	42	感染性胃腸炎・ロタウイルス腸炎(42)
Aデノ	I	1	感染性胃腸炎(1)
インフルエンザ	AH3	1	インフルエンザ(1)
サボ		1	感染性胃腸炎(1)
ノロ	GII.2	2	感染性胃腸炎(2)
ノロ	GII.3	1	感染性胃腸炎(1)
ノロ	GII.4	1	感染性胃腸炎(1)
ノロ	GII.6	1	感染性胃腸炎(1)
ヘルペス	6B	1	ウイルス性扁桃炎(1)
ヒトメタニューモ		1	急性上気道炎(1)、鼻咽頭炎(1) インフルエンザ疑い(2)、肺炎(1)
ライノ		3	気管支炎(1)、発疹症(2)
ライノ	A	2	急性気管支炎(1)、気管支肺炎(1)
ライノ	C	1	肺炎(1)



奈良県感染症情報

令和元年 第20週(5月13日～5月19日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	感染性胃腸炎	5.44	(6.94)	→	→	↓
2	A群溶連菌咽頭炎	2.26	(1.62)	→	→	↓
3	手足口病	0.76	(0.44)	↑↑	↑↑	→
4	RSウイルス感染症	0.68	(0.29)	↑	↑	→
5	インフルエンザ	0.58	(0.40)	→	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

A群溶連菌咽頭炎の報告数が増加しており、特に中和保健所管内西部地域からの報告が多くなっています。咽頭痛が早い場合に医療機関を受診しましょう。治療には抗生物質が有効です。手足口病の報告数が増加しています。今後、手足口病だけでなく咽頭結膜炎やヘルパンギーナといった夏に流行する感染症の報告数が増加してくると予想されます。手洗いがいを習慣づけてください。インフルエンザは、少ないですが報告が続いています。感染を避けたいため、咳やくしゃみが出る場合はマスクの着用を心がけましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(矢追医院)

連休の影響で患者数は減っている。感染性胃腸炎が幼児から成人までみられる。成人は細菌性が多い。水痘が小学生以下にみられる。予防接種を受けている子ばかりで、発熱は軽度だが発疹が多数出ている子もある。インフルエンザは成人でみられる。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

連休明けで外来数は増加。先週から学童でインフルエンザB型が再流行、学級閉鎖もみられた。症状は短期の高熱が主、胃腸症状を伴う例は少なかつた。感染性腸炎が同時に流行中。高熱を伴う例がありインフルエンザB型との鑑別が必要であった。手足口病がみられてきた。その他 流行性耳下腺炎、水痘があり種々雑多の様相。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

胃腸炎は減少、インフルエンザもほぼみられなくなつた。咽頭結膜炎や手足口病の夏カゼが増加してきている。





奈良県感染症情報

令和元年 第21週(5月20日～5月26日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報(臨時)
- 6月1日～7日は「HIV検査普及週間」

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	感染性胃腸炎	5.76	(5.44)	→	→	→
2	A群溶連菌咽頭炎	2.53	(2.26)	↗	→	→
3	手足口病	1.97	(0.76)	↑	↑↑	↓
4	突発性発しん	0.65	(0.41)	↑	↑	→
5	咽頭結膜熱	0.59	(0.50)	↗	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

A群溶連菌咽頭炎の報告数はやや増加しています。予防としては、うがい・手洗いなどの一般的な予防法の励行に加えて、患者との濃厚接触を避けることが最も重要です。
 手足口病の報告数が増加しています。特に中和保健所管内西部地域で急増しており、定点当たり報告数が7.17と、警報開始基準値の15を超えています。年齢別にみると1～2歳児の発症が多く、およそ8割を占めています。手足口病は、口の中や手足などに水疱性の発疹が出る感染症で、夏に流行します。今後さらに増加してくることが予想されますので、流水と石けんによる手洗いを行い、予防に努めてください。

◆小児科外来情報(臨時)◆

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

インフルエンザB型が2週ほど前より増加中。
 小学校・中学校で学級閉鎖あり。回腸間での感染による4歳児の発症もあり。
 低年齢への拡大懸念。

◆6月1日～7日は「HIV検査普及週間」◆

- HIV感染は早期発見、早期治療が重要です
- 県内の保健所で夜間・休日に無料・匿名でHIV検査を実施します
各保健所の実施日・時間についてはこちらをご覧ください
- 平成31年度「HIV検査普及週間について」:<http://www.pref.nara.jp/26097.htm>
- 上記期間以外の検査は、事前に各保健所にご連絡のうえ、受検してください
- エイズ対策関連情報: <http://www.pref.nara.jp/20235.htm>
- HIV検査は「抗体検査」が一般的です
血液中で抗体が検出されるのは、HIV感染後から通常6～8週間を要するため、感染が疑われる時期から3か月以上経ってから検査を受けることをおすすめします。
- エイズ予防情報ネット: <http://api-net.ifap.or.jp/knowledge/index.html>
- 政府広報オンライン: <https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201305/2.html>



奈良県感染症情報

令和元年 第22週(5月27日～6月2日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	感染性胃腸炎	5.91	(5.76)	→	→	→
2	手足口病	3.18	(1.97)	↑↑	↑↑	↑↑
3	A群溶連菌咽頭炎	2.53	(2.53)	↗	↑	↘
4	咽頭結膜熱	0.65	(0.59)	↗	→	→
5	突発性発しん	0.44	(0.65)	→	↗	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

手足口病の報告数が増加しています。特に中和保健所管内及び郡山保健所管内からの報告数が多く、大阪府や京都府でも報告数が増加しています。手足口病は4歳位までの幼児を中心に、夏場に流行し、口の中や手足などに水疱性の発疹がでる感染症です。症状がなくなつた後も、便からウイルスが2～4週間排泄されることがあります。流水と石けんによる手洗いをし、予防と感染拡大防止に努めてください。
 咽頭結膜熱の報告数は、やや増加しています。症状は発熱や咽頭痛、結膜炎に伴う結膜充血などで、目の症状は片方の目から始まり、その後他方にも現れます。日頃から手洗い、うがいによる感染症予防に努めます。

◆小児科外来情報◆

北部地区(矢温医院)

気候が良くなり患者数は少ない。手足口病やヘルパンギーナがそろそろきてきている。インフルエンザはほとんど無くなっている。感染性胃腸炎も少ない。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

種々の感染症パターンで外来数は比較的多い。インフルエンザB型がまだ見られ学級閉鎖もあった。2歳女児のhMPV陽性例があり、肺炎像はないが高熱、咳嗽がつよい。
 アデノ様咽頭炎、ヘルパンギーナ、水痘、手足口病が増加。水痘はワクチン一度接種済みの37歳女性、12歳男児と年長例があり水痘多量比較的重い経過であった。手足口病は、発疹が多く口内変化が少くないタイプと咽頭にヘルパンギーナ様症状が強く出現し手足の発疹が少ないタイプがあるようで後者では高熱例が多い印象。ただし過去に見られたEV71を疑う重症例はまだない。感染性腸炎も流行。ロタ陽性例が多い。ワクチン未接種者ばかり。1歳児で手足口病とロタ腸炎を併発の例があり、嘔吐を伴ったが発熱なく手足口病髄膜炎、クモ(陰性)は否定的。種々の新しいウイルス性疾患がありサーベイランス病名改変が望まれる。
 家族内感染の手足口病があった。子供1歳高熱で手足口病診断、5日後に祖母56歳、6日後に母24歳発症、ともに39歳。症状は典型的、ただし母の発疹は細かい点状発疹が主で水疱は点在程度、加えて咳嗽を伴っていた(関連不明)、ウイルス分離提出。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

各種迅速検査陰性で、hMPV様の経過をとるウイルス性呼吸器感染症の流行が続く。肺炎を併発し、入院例もみられる。手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱が増加。手足口病は前腕、下腿に水疱をあまり伴わない発疹が中心で、口腔内、手掌、足底にはでない非典型的なものだが、軽症に経過している。
 また、夏カゼに併発した胃腸炎も増加傾向にある。



奈良県感染症情報

令和元年 第23週(6月3日～6月9日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(5月)
- 5月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	5.18	(5.91) ↓	→	→	↑↑
2	手足口病	3.41	(3.18) ↑	↑↑	↑↑	→
3	A群溶連菌咽頭炎	2.41	(2.53) ↓	↗	↗	↑↑
4	ヘルパンギーナ	0.79	(0.38) ↑	↑↑	↑↑	↑↑
5	水痘	0.74	(0.32) ↑	↑↑	↑↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

第20週以降、手足口病の報告数の増加が続いています。中和保健所管内西部地域では、定点当たりの報告数が警報開始基準値の「5」を超えており、中和保健所管内東部地域、郡山保健所管内でも高値となっています。年齢別では0～2歳までの発症が全体の8割を占めています。

ヘルパンギーナの報告数も増加しています。手足口病、ヘルパンギーナは、夏場に流行し、口腔内の水疱性発疹等の症状がみられます。

また、中和保健所管内西部地域では、水痘の報告数が増加しました。手洗い、やがいの徹底、タオルの共有、患者との濃厚な接触を避ける等により、予防に努めます。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(令和元年5月) ◆

* ウイルス分離同定日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
A群ロタ	G3	2	1		感染性胃腸炎・ロタウイルス胃腸炎(3)
A群ロタ	G9	24	30		感染性胃腸炎・ロタウイルス胃腸炎(58) 感染性胃腸炎(1)
アデノ	2	1	1		突発性発疹(1)
アデノ	3	1	1		咽頭結膜熱・喘息様気管支炎(1)
インフルエンザ	AH3	1	1		インフルエンザ A(1)
インフルエンザ (ヒクノリア系統)	B	1	1		インフルエンザ B(1)
ノロ	GII.2	1			感染性胃腸炎(1)
ノロ	GII.4	3			感染性胃腸炎(2)、ノロ胃腸炎(1) 気管支炎(1)
バラインフルエンザ		1			
パルボ	Bl9	1			発疹症(1)
ライノ	A	1			鼻咽頭炎(1)、突発性発疹・扁桃炎(1)
ライノ	A	1			気管支肺炎(1)
ライノ	C	3			気管支炎(1)、クループ(1)、発疹症(1)



奈良県感染症情報

令和元年 第24週(6月10日～6月16日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 保健研究センターより6月2018/19シーズンのA群ロタウイルスの検出状況について

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	手足口病	5.74	(3.41) ↑↑	↑↑	↑↑	→
2	感染性胃腸炎	3.91	(5.18) ↓	↘	↘	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	2.68	(2.41) →	↗	↗	↑
4	咽頭結膜熱	0.79	(0.50) ↗	↗	↗	→
5	ヘルパンギーナ	0.71	(0.79) ↑	↑↑	↑↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

手足口病の定点当たりの報告数が警報開始基準値の「5」を超え、「5.74」となり、警報発令となりました。特に中和保健所管内西部地域では、「5.33」と非常に高値となっています。奈良県の警報発令時期は、直近で発令があった平成29年の第27週(7月3日～9日)より3週早くなっています。近畿府県でも、大阪府をはじめ流行がみられており、今後も流行が続くことが予想されます。手足口病は、乳幼児だけでなく、大人にも感染することが知られています。大人の方は乳幼児のおむつ交換にも注意を払い、手洗い、やがいの徹底、タオル等の共有を避けることで、感染症予防に努めましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

【北部地区(矢追医院)】

感染症関連の外来患者は減っています。最近では夏かぜが目立ってきています。手足口病、咽頭結膜熱(プール熱)が保育園児でみられ、溶連菌感染症も続いています。

【中部地区(岡本内科子どもクリニック)】

手足口病が大流行中。
水痘、ヘルパンギーナも多く、伝染性紅斑が1例あった。
インフルエンザはこの2週、見られずほぼ終焉した。
hMP肺炎も減少したがまだ見られた。感染性腸炎も流行持続。

【南部地区(奈良県総合医療センター小児科)】

ウイルス性胃腸炎、夏かぜに伴う下痢症多し。カンピロバクター腸炎も数名みられた。
手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱も増加している。



奈良県感染症情報

令和元年 第25週(6月17日～6月23日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 海外へ渡航される皆様へ

手足口病警報発令中です!!

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	手足口病	7.88	(5.74)	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	4.82	(3.91)	→	→	↑
3	A群溶連菌咽頭炎	1.85	(2.68)	→	→	→
4	ヘルパンギーナ	1.15	(0.71)	↑↑	↑↑	↑↑
5	咽頭結膜熱	0.91	(0.79)	↑	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況

手足口病の報告数の増加が続いています。県内南部地域を除き、警報開始基準値の「5」を超えており、特に中和保健所管内では「11」を超えています。また、近畿の全ての府県で、警報開始基準値を超えました。手足口病の原因ウイルスは複数あるため、一度感染して治った後も再び感染してしまうことがあります。保健研究センターで医療機関からの検体を検査したところ、コクサッキーA群6型の検出を確認しています。手洗いの徹底やタオルの共有を避ける等により、感染症予防に努めましょう。

◆海外へ渡航される皆様へ

出発前に確認、実施しておきたいこと

- ・予防接種が推奨される疾患で、受けていないものがあれば、時間に余裕をもって医師に相談する。(予防接種種によっては、複数回の接種が必要なものがあります。)
- ・渡航先で流行している感染症の情報や渡航先の医療機関の情報を確認する。(厚生労働省検疫所HPで、国別の感染症情報を確認できます。)

旅行中に注意すべきこと

- ・生水、氷、カクトフルーツの入ったもの避け、十分に火の通った信頼できるものを食べる。
- ・蚊、ダニに刺されないよう、服装に注意し、長袖・長ズボンなどを着用する。
- ・動物は、狂犬病、鳥インフルエンザなどのウイルスを、ヒトコブアラクダではMERSのウイルスをもっていることがあり、むやみに近寄ったり、触らないようにする。

帰国後に注意すること

- ・感染症には、潜伏期間が長いもの(2～6週間以上)もあります。帰国後に体調不良を感じた場合は、医療機関を受診し、渡航先、滞在中の現地の飲食状況、渡航先での職歴や活動内容、動物との接触の有無、ワクチン接種歴等について必ず伝えてください。
- (発疹や発熱等の麻しんのような症状では、事前に医療機関に電話連絡し、指示に従い受診してください。)

◆参考リンク

厚生労働省検疫所 : <https://www.forth.go.jp/index.html>



奈良県感染症情報

令和元年 第26週(6月24日～6月30日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

手足口病警報発令中です!!

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	手足口病	9.12	(7.88)	↑	↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	4.15	(4.82)	→	→	→
3	ヘルパンギーナ	1.94	(1.15)	↑↑	↑↑	↑↑
4	A群溶連菌咽頭炎	1.56	(1.85)	→	→	↓
5	伝染性紅斑	0.97	(0.82)	↑	↑	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況

手足口病警報発令中です。定点あたり報告数は、郡山保健所、内吉野保健所を除くすべての保健所管内で増加しています。特に中和保健所管内では「14」を超えており、報告数の多い状態が続いています。また、ヘルパンギーナの報告数も増加しています。

手足口病とヘルパンギーナは、ともに口腔内に水泡性発疹が出現します。口腔内の痛みから、食事や水分補給が十分に来ず、脱水症状になることもあるため、注意が必要です。両疾患ともウイルス性感染症で、感染経路は飛沫感染や接触感染です。予防にはこまめな手洗いや感染者との密接な接触を避けることが重要となります。

暑さが本格的になってきました。規則正しい生活をこころがけ、感染症を予防しましょう。

◆小児科外来情報

北部地区(矢追医療)

手足口病や咽頭結膜熱など夏かぜが保育園や幼稚園児から小学校低学年で流行しています。手足口病は1日程度の突然の発熱があり、口腔内や四肢の水疱疹がみられます。咽頭結膜熱は、典型的な結核膜充血がみられる場合もありますが、突然の高熱以外理学的所見がはっきりしない場合も多く、迅速検査が必要ですが、感染性胃腸炎は少なくなっています。小学校高学年から成人には細菌性と思われる腸炎がみられます。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

手足口病はわずかに減少に転じた。子供2人、母、祖母の家族内4人発症の母親24歳からコクサッキーA6が分離された。他に2日程度発熱後に全身細かい発疹(突発性発疹様でない)例、あるいは四肢・軀幹に伝染性紅斑様の網目様発疹があるが類にない、未知(?)の発疹症が数例確認して見られた。感染性腸炎も流行。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

手足口病の流行が続いている。ヘルパンギーナ、アデノウイルス咽頭炎も夏カゼ由来と思われ。ウイルス性胃腸炎も増してきている。各種迅速検査陰性で夏カゼ由来と思われる。



令和元年 第27週(7月1日～7月7日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

奈良県感染症情報

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(6月)

手足口病警報発令中です!!

定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

Table with 5 rows and 5 columns: 順位, 疾患名, 奈良県 (定点当たり, 前週), 増減

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 急増、急増加、やや増加、増加、やや増加、減少

県内概況

手足口病警報発令中です。手足口病は症状がなくなっても便から2~4週間ウイルスが排泄されます。
人が感染することもありますが、おむつの処理後は必ず流水と石けんで手洗いをうす注意してください。

病原体(ウイルス)検出情報(令和元年6月)

Table with 5 columns: 検出病原体, 北部, 中部, 南部, その他, 臨床診断名



令和元年 第28週(7月8日～7月14日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

奈良県感染症情報

今週の概要

- 小児科外来情報
6月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

手足口病警報発令中です!!

定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

Table with 5 rows and 5 columns: 順位, 疾患名, 奈良県 (定点当たり, 前週), 増減

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 急増、急増加、やや増加、増加、やや増加、減少

県内概況

手足口病は報告数の多い状況が続いており、先週よりさらに増加しています。また、手足口病と同じくエンテロウイルスが原因であるヘルパンギーナの報告数も増加しています。

小児科外来情報

北部地区(矢追医院)

夏かぜの流行が続いています。手足口病は幼児とその保護者で多く、ヘルパンギーナは小学生で多くなっています。両疾患の原因ウイルスは異なるようで、今シーズン別々に感染が確認された子が2例みられました。

中部地区(高木内科とモクリニツク)

手足口病はわずかに減少傾向。家族内感染で成人にもみられる。症状はやや軽症に転じてきた印象。飛出した咽頭検体からはコクサッキーA6が分離された。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

手足口病の流行が続いている。髄膜炎の合併はみられませんが、食欲不振、熱性けいれん、胃腸炎症状は多くみられている。ヘルパンギーナ、アデノウイルス感染症も多い。発熱以外の症状のないウイルス性咽頭炎も夏カゼと判断、対症療法で軽快している。



奈良県感染症情報

令和元年 第 29 週 (7 月 15 日 ~ 7 月 21 日)
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 風しんの追加的対策について

手足口病警報発令中です!!

◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減 (前週)			
1	手足口病	8.38	(10.91)	↗	↘	→
2	感染性胃腸炎	3.26	(4.15)	→	↘	↘
3	ヘルパンギーナ	1.88	(2.50)	↗	→	↗
4	A群溶連菌咽頭炎	1.44	(1.74)	→	↘	→
5	伝染性紅斑	0.68	(0.91)	↗	↘	↘

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→横ばい、↘やや減少、↘減少

◆ 県内概況

手足口病は先週より減少していますが、報告数の多い状況が続いており、感染拡大に注意が必要です。手足口病の原因ウイルスは複数あるため、一度感染して治った後も再び感染してしまうことがあります。予防接種がなく、予防法は手洗いをこまめに行うことです。流水、石けんによる手洗いをしっかりと行い、タオルやおもちゃの共用は避けてください。発症した場合には、口の中や喉の痛みから食べ物や飲み物を受けつけず、脱水症状を起こすこともあります。刺激が少なく、嘔まずに飲み込めるようなものを摂るようにしてください。また、症状がなくなった後も便や鼻汁からウイルスが排泄されることがあるため、注意が必要です。

夏休みに入り、人混みの中へ出かけられることも多くなるかと思えます。帰宅時には、手洗い、うがいを行うなど感染症対策を心がけましょう。

◆ 風しんの追加的対策について

2022年3月31日までの期間に限り、対象者の方は風しん抗体検査・予防接種を公費で受けられます。定期の健康診断の際に、風しんの抗体検査も併せて受けられますので、この機会に風しんの抗体検査を受けましょう。

- 対象者には、住民票のある市区町村からクーポン券が順次届きます。
 - 2019年度のクーポン券送付の対象となるのは、昭和47年4月2日～昭和47年4月1日に生まれた男性です。
 - 2019年度にクーポン券が届かない昭和37年4月2日～昭和47年4月1日に生まれた男性については、2020年度や2021年度に受け頂けなく、希望すれば1年目にクーポン券の発行が可能ですので、住民票のある市区町村にお問い合わせください。
- 抗体検査を受けてください(定期検診の機会や、本事業対象医療機関等で受けることが可能です)。
 - 抗体検査の際には、原則としてクーポン券、本人確認書類(免許証、マイナンバーカード等)の提示が必要です。
 - クーポン券は原則として発行された年度のみ有効です。有効期限内に受けられなかった場合には、2020年度(2021年度)に再度、市区町村から新しい有効期限が記載されたクーポン券が発行されますので、有効なクーポン券を使用してください。
 - 血液検査により行われますので、時間がかかりません。結果は後日届きます。
 - 市区町村の事業なので、費用もかかりません。
- 抗体検査の結果、十分な量の抗体が無い方は、定期接種(ワクチン)の対象となります。

※ なお、自治体により事業の開始時期や対応が異なるため、住民票のある市区町村にお問い合わせください。

参考 厚生労働省:風しんの追加的対策について

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/index_00001.html



奈良県感染症情報

令和元年 第 30 週 (7 月 22 日 ~ 7 月 28 日)
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

手足口病警報発令中です!!

◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減 (前週)			
1	手足口病	6.21	(8.38)	→	↘	↘
2	感染性胃腸炎	2.65	(3.26)	→	↘	→
3	ヘルパンギーナ	1.82	(1.88)	→	→	↗
4	A群溶連菌咽頭炎	1.12	(1.44)	↘	→	↘
5	伝染性紅斑	0.76	(0.68)	→	→	↗

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↘減少

◆ 県内概況

手足口病は、2週連続で減少しているものの、報告数は多い状態が続いています。厚生労働省によると、全国の小児科定点からの手足口病の報告数は過去20年間で最も多い状況です。引き続き、手洗いの徹底等により感染予防に努めましょう。

ヘルパンギーナは、手足口病と同様に夏期にピークを迎える疾患で、県内の報告数は横ばいですが、やや多い報告数となっています。また、RSウイルス感染症の報告も徐々に増加しています。

手洗い、うがい、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取を心がけ、日頃から感染症予防に努めましょう。

◆ 小児科外来情報

北部地区 (矢追医院)

依然として手足口病が流行していますが、流行のピークは過ぎたようです。保育園児に多くみられます。その他の夏かぜでは、ヘルパンギーナが5才以上に、咽頭結膜熱は3才前後にみられます。

中部地区 (岡本内科 ともクリニック)

手足口病の流行が続いている。
ヘルパンギーナ、感染性腸炎、水痘も流行中、流行性耳下腺炎が一例あった。

南部地区 (奈良県総合医療センター 小児科)

夏休みに入っても手足口病の大流行が続く。ヘルパンギーナや伝染性紅斑も流行している。
夏カゼ由来と思われる胃腸炎も増加してきた。ウイルス性腸炎とみられた中に細菌性腸炎もあり、要時細菌検査も必要である。



令和元年 第31週(7月29日～8月4日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

奈良県感染症情報

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(7月)

手足口病警報発令中!!!

定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

Table with 5 columns: 順位, 疾患名, 奈良県 (定点当たり, 前週), 増減, 中部, 南部. Rows include 手足口病, 感染性胃腸炎, ヘルパンギーナ, A群溶連菌咽頭炎, 伝染性紅斑.

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→横ばい、↘やや減少、↓↓減少

県内概況

手足口病は3週連続で減少しましたが、警報終息基準値の報告数[2]を下回っておらず、感染拡大に注意が必要です。保健研究センターの検査では、コクサッキーA群6型を多数検出しています。ヘルパンギーナの報告数は増加しています。ヘルパンギーナは手足口病とともに、口腔内に水疱性発疹があらわれる疾患で、口腔内の痛みから食事や水分補給が十分にできず、脱水症状を起すこともあります。また、伝染性紅斑も流行しており、特に妊婦の方は感冒様症状のヒトとの接触を避ける等、注意が必要です。気温が上昇し、暑さが本格的になってきました。手洗い・うがいを徹底し、規則正しい生活をこころがけ、感染症を予防しましょう。

病原体(ウイルス)検出情報(令和元年7月)

* ウイルス分離同定日での集計結果

Table with 5 columns: 検出病原体, 北部, 中部, 南部, その他. Rows include A群ロタ, A群ロタ, アストロ, アデノ, アデノ, エコー, コクサッキーA群, サボ, サボ, ノロ, パラインフルエンザ, ハルボ, ヒトパレコ, ヒトメタニューモライノ, ライノ.



令和元年 第32週(8月5日～8月11日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

奈良県感染症情報

今週の概要

- 小児科外来情報
- 7月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

手足口病警報発令中!!!

定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

Table with 5 columns: 順位, 疾患名, 奈良県 (定点当たり, 前週), 増減, 北部, 中部, 南部. Rows include 手足口病, 感染性胃腸炎, ヘルパンギーナ, A群溶連菌咽頭炎, RSウイルス感染症.

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→横ばい、↘やや減少、↓↓減少

県内概況

手足口病の報告数は減少していますが、警報の終息基準値である定点あたりの報告数[2]を下回るまで警報は継続しており、注意が必要です。RSウイルス感染症の報告数が増加しています。RSウイルス感染症は、発熱、咳等の風邪症状から始まり、乳幼児や高齢者では症状が重み、湿性咳嗽(タンがからんだ咳)や気管支炎、肺炎へと重症化することがあります。しかし、年長児や成人は症状が軽く、感染していることがわかりにくいことから、咳等の症状がある場合は、できるだけ乳幼児等への接触を避けることが必要です。手洗い・うがいの徹底、咳やくしゃみのエチケットにより、感染予防に努めましょう。

小児科外来情報

北部地区(矢追医院)

8月に入り手足口病とヘルパンギーナの流行は半減しました。保育園児が中心の流行です。咽頭痛と熱を訴える5才前後からそれ以上の子どもでは、アデノウイルスや溶連菌の感染がみられます。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

手足口病の流行は落ちつきだした。ヘルパンギーナも減少。RSウイルス感染症は増加、昨年よりさらに流行が早まっている。インフルエンザは他県からの旅行者で、散発のみ。





奈良県感染症情報

令和元年 第33週(8月12日～ 8月18日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:07-44-47-3183

手足口病 警報発令中

今週の概要

- 風疹に関する追加的対策

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減		
1	感染性胃腸炎	2.62	(2.38)	→	→	→
2	手足口病	2.53	(3.06)	↓	→	→
3	ヘルパンギーナ	1.65	(1.71)	→	→	←
4	RSウイルス感染症	1.09	(0.88)	↑	↑↑	→
5	A群溶連菌咽頭炎	0.65	(0.97)	→	↓	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

手足口病は、徐々に減少していますが、定点当たり報告数が「2」を下回るまでは、警報は継続しており、まだまだ流行している状態です。手足口病やヘルパンギーナはともにエンテロウイルスによる感染症です。症状が軽快してもしばらくの間、便中にはウイルス排泄が続きますので、トイレやおむつ交換の後にはしっかりと手を洗いましょう。

RSウイルス感染症が、徐々に増加しています。このころ、9月に大きく流行することもあり、今後の流行状況には注意が必要です。RSウイルスは、免疫ができていくため何度も感染します。年長児や成人では症状は軽くなりますが、免疫の弱い乳児や高齢者が感染すると、重症化し、死亡することもあります。流行する時期には、軽い咳や鼻水など症状がある人は、乳児・高齢者に近づかないような配慮が必要です。

◆風疹に関する追加的対策◆

現在の風疹の発生状況等を踏まえ、風疹の感染拡大防止のため、追加的対策が実施されています。予防接種法に基づく定期接種の機会が一度もなかった1962年4月2日～1979年4月1日生まれの男性(現在40歳～56歳)について、2022年3月未だの間、原則無料で予防接種を受けられる定期接種の対象とし、市区町村からクーポン券が配布されています。

なお2019年度は、1972年4月2日～1979年4月1日生まれの男性にクーポン券が送付されます。クーポン券を使用すれば原則無料で抗体検査及び予防接種を受けられます。2019年度にクーポン券が送付されない対象者も市区町村に希望すればクーポン券を発行し、抗体検査を受けられます。なお、自治体により事業の開始時期や対象が異なるため、お住まいの市区町村にお問い合わせください。

< https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_06165.html >

ラグビー 日本代表 ©JRFU



奈良県感染症情報

令和元年 第34週(8月19日～ 8月25日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:07-44-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.44	(2.62)	→	→	→	
2	A群溶連菌咽頭炎	1.62	(0.65)	↑	↑	→	
3	RSウイルス感染症	1.53	(1.09)	↑	↑↑	→	
4	手足口病	1.15	(2.53)	↓	↓	→	
5	伝染性紅斑	0.74	(0.50)	→	→	↑	

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

RSウイルス感染症の報告数が、先週に引き続き多くなっています。今後も流行の拡大が予想されるため、注意が必要です。RSウイルスに感染すると、2～8日の潜伏期間を経て、発熱や鼻水などの上気道炎症状が数日続きます。多くの場合、軽症でおさまりますが、1歳未満の乳児の場合は、急性細気管支炎や肺炎などの重い呼吸器症状をおこすことがあります。また、呼吸器や心臓に疾患のある高齢者においても、重症化しやすく、死亡することもあります。

咳が出るなどの症状がある年長児や成人は、できるかぎり乳児や高齢者との接触を避け、マスクを着用することが大切です。また、子どもたちが日常的に触れるおもちゃや手すりなどはこまめにアルコールで消毒し、きちんと手洗いを行いましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(矢追医院)

手足口病やヘルパンギーナ、アデノウイルス感染症など夏かぜは減少している。RSウイルスによる気管支炎がみられた。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

夏風邪、ヘルパンギーナ、手足口病は減少し殆ど見られなくなった。感染性腸炎が持続、嘔吐の例もある。流行性耳下腺炎があった。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

手足口病、ヘルパンギーナは減少。胃腸炎は横ばい。軽症だが遅延する呼吸器感染症が増加してきている。RSウイルス感染症もみられる。





奈良県感染症情報

令和元年 第35週(8月26日～9月1日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(8月)
- 8月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	RSウイルス感染症	2.91	(1.53) ↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	2.50	(2.44) →	→	→	↑
3	ヘルパンギーナ	1.35	(0.50) →	→	→	↑↑
4	A群溶連菌咽頭炎	1.21	(1.62) →	→	→	↓
5	手足口病	0.94	(1.15) ↓	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆ 県内概況 ◆

RSウイルス感染症の報告数がさらに増加しています。郡山、中和、吉野保健所管内で報告数が増加しており、特に中和保健所管内西部地域では定点あたり報告数が6.3と高い状態です。今後も冬頃まで増加が続くことが予想されますので、注意が必要です。RSウイルスは、ほぼすべての子どもが2歳までに一度は感染するとされており、乳幼児早期(生後数週間～生後数ヶ月)や高齢者に感染すると重症化しやすいため、注意が必要です。一回の感染では免疫のでき方が弱いめ繰り返して感染しますが、症状は年齢を追うごとに軽くなっていきます。年長児や成人は、軽い咳などの症状でも、乳児や高齢者との接触を避けましょう。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(令和元年8月) ◆

*ウイルス分離同日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
コクサッキーA群		1			急性咽頭炎(1)
コクサッキーA群		6			手足口病(4) ヘルパンギーナ(2) 咽頭炎(1)
サイトメガロ		2			二相性ひいれん重積型脳症(1)*
サポ	G1	3			突発性発疹(1) 手足口病(1)
サポ	GII	1			感染性胃腸炎(2) 急性腸炎(1)
ヒトパレコ	3	2			手足口病、発疹症(1) 流行性筋痛症(1)
ヒトヘルペス	6B	1			二相性ひいれん重積型脳症(1)* 気管支肺炎(1) 気管支炎(1)
ライノ		2			気管支炎(2)
ライノ	A	2	1		急性上気道炎(1) 細気管支炎(1)
ライノ	C	1			二相性ひいれん重積型脳症(1)*
アデノ	1	1			急性気管支炎(1)
アデノ	2	1			急性上気道炎(1)

* 重症感染



奈良県感染症情報

令和元年 第36週(9月2日～9月8日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	RSウイルス感染症	4.32	(2.91) ↑↑	↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	3.21	(2.50) ↑	↑	→	↑↑
3	ヘルパンギーナ	1.06	(1.35) ↓	→	→	↑
4	手足口病	1.00	(0.94) ↓	↓	↓	↓
5	A群溶連菌咽頭炎	0.88	(1.21) →	↑	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆ 県内概況 ◆

RSウイルス感染症報告数がさらに増加しています。中和保健所管内西部地域で報告数が増加しており、定点あたり報告数が11.83と非常に高い状態です。その他の地域も、内吉野保健所管内を除くすべての地域で報告数が増加しています。

また、インフルエンザの報告が出てきています。第36週は奈良市保健所管内では10件、県内全体では15件の報告がありました。

RSウイルス感染症もインフルエンザも、感染経路は患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことで感染する飛沫感染と、ウイルスが付着した手や物品(手すり、おもちゃなど)を触ったりなめたりすることによる接触感染です。流水・石けんによる手洗いや、うがい、咳エチケットを心がけましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

8月から奈良市各地区からインフルエンザA型がみられるようになっていきます。症状は従来同様に突然の高熱と咳嗽です。

RSウイルス感染症も幼児でみられます。手足口病やヘルパンギーナ等の夏かぜは減少してきました。

季節の変わり目で喘息の発症が子供から成人まで増えていきます。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

RSが増加、紹介入院例もある。

発熱、咽頭発赤、目やにを伴う例が増加、眼脂からアデノ陽性例があるが、咽頭からは陰性例が多い。

手足口病様例が再び増加、発熱軽度、咽頭はヘルパンギーナ様でなく、手足の発疹は水泡を形成しない。

感染性腸炎も僅かづつ流行。インフルエンザは見られていない。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

RSウイルス感染症の流行が続いている。発熱遷延例(9日間高熱)もみられる。

手足口病の流行はおさまってきたが、ヘルパンギーナが増加している。

B型インフルエンザが散見されている。



奈良県感染症情報

令和元年 第37週(9月9日～9月15日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 感染症予防～インフルエンザやRSウイルス・百日咳の感染経路は、飛沫感染と接触感染です。～

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	RSウイルス感染症	5.94	(4.32) ↑↑	↑	↑↑	↑
2	感染性胃腸炎	3.59	(3.21) ↑	↑	↑	↓
3	手足口病	1.53	(1.00) →	↑	↓	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	1.29	(0.88) ↑	↑	→	↑
5	ヘルパンギーナ	0.94	(1.06) ↓	↓	↓	↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや増加** **急増** **増加** **急増** **増加** **やや減少** **減少**
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆ 県内概況 ◆

RSウイルス感染症の報告数の増加が続いています。特に中和保健所管内西部地域では、前週よりも大きく増加し、定点あたり報告数が19.00と非常に高い状態です。今後も、冬にかけて流行が続くことが予想されますので、注意が必要です。

第37週はインフルエンザの報告が北部地域で6件、南部地域で4件ありました。例年、インフルエンザの流行は新年になってからですが、過去には9月に集団感染事例が発生したこともあります。RSウイルスもインフルエンザも、感染経路はともに飛沫感染と接触感染です。感染予防のポイント「手洗い」「咳エチケット」による感染拡大防止を心がけましょう。

感染症予防

～インフルエンザやRSウイルス・百日咳の感染経路は、飛沫感染と接触感染です。～

飛沫感染

(1) 感染者のくしゃみや咳、つばなどの飛沫と一緒にウイルスが放出

(2) 別の人が、そのウイルスを口や鼻から吸い込み感染

接触感染

(1) 感染者がくしゃみや咳を手で押さえる

(2) その手で周りの物に触れて、ウイルスが付く

(3) 別の人が、その物に触って、ウイルスが手に付く

(4) その手で口や鼻を触って感染から感染

※主な感染場所: 学校や職場、高齢者などの人が多く集まる場所



奈良県感染症情報

令和元年 第38週(9月16日～9月22日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	RSウイルス感染症	4.38	(5.94) ↓	↑	↑	→
2	感染性胃腸炎	1.88	(3.59) ↓	↓	↓	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	1.06	(1.29) →	→	→	↓
4	手足口病	1.03	(1.53) ↓	↓	↓	↓
5	インフルエンザ	0.27	(0.18) ↑↑	↑	↑↑	↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや増加** **急増** **増加** **急増** **増加** **やや減少** **減少**
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆ 県内概況 ◆

RSウイルス感染症は報告数が多い状態が続いています。特に中和保健所管内で定点あたり報告数が多くなっています。咳など呼吸器症状がある場合はマスクを着用し、重症化しやすい乳児や高齢者との接触は避けるようにしましょう。

インフルエンザの報告が中和保健所管内で増加しています。また、9月24日には奈良市保健所管内で県内における今年度最初のインフルエンザの集団感染が発生しました。これは、昨年度よりも1か月ほど早いです。こまめな手洗いや咳エチケット、規則正しい生活(バランスのとれた栄養、睡眠時間を十分に取る)を心がけ、感染予防に努めましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

39℃前後の弛張熱、痰の絡んだ咳、鼻汁が続くRS感染症が3才までの保育園児を中心に大流行しています。気温の低下に伴い嘔吐、腹痛、下痢と熱の感染性胃腸炎がそろそろ出てきています。ヘルパンギーナ等の夏かぜはほぼ無くなりました。伝染性紅斑が奈良市でよくみられました。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

RS気管支炎の流行が持続。感染性腸炎も持続。手足口病、ヘルパンギーナは見られなくなりました。インフルエンザはまだ少ない。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

手足口病、ヘルパンギーナは減少してきた。RSウイルス感染症の流行は続いている。例年より有熱期間が長引く印象がある。他の呼吸器感染症(比較的軽症)や胃腸炎も増加傾向にある。A型、B型のインフルエンザが散発している。大きな流行にはなっていない。



奈良県感染症情報

令和元年 第39週(9月23日～9月29日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(9月)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	RSウイルス感染症	3.94	(4.38)	→	→	→
2	感染性胃腸炎	2.97	(1.88)	→	→	→
3	A群溶連菌咽頭炎	1.21	(1.06)	→	→	↑↑
4	手足口病	0.74	(1.03)	→	↓	↓
5	突発性発しん	0.38	(0.24)	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆ 県内概況 ◆

RSウイルス感染症は多い状態が続いています。特に中和保健所管内で多くなっています。重症化しやすい乳幼児や高齢者の感染を避けるため、年長児や成人は、軽い咳などの症状でも、乳幼児や高齢者との接触を避ける等の注意が必要です。
 インフルエンザの報告数が増加してきています。第39週(9月23日～29日)は、北部地域では17件、中部地域では4件の報告があり、北部地域で報告数がやや多くなっています。
 石けんと流水による手洗い、うがいの徹底や咳エチケットを心がけて感染予防に努めましょう。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(令和元年9月) ◆

* ウイルス分離同定日での集計結果

検出病原体	* ウイルス分離同定日での集計結果			その他	臨床診断名
	北部	中部	南部		
RS	1	1			肺炎(1)、RSウイルス感染症(1)
アデノ	2	1			感染性胃腸炎(1)
アデノ	5	1			急性咽頭炎(1)
エコー	30	1			無菌性髄膜炎(1)
コクサッキーA群	5	1			鼻咽頭炎(1)*
コクサッキーA群	10	1			咽頭炎(1)
ライノ		4			気管支炎(2)、肺炎(1)、急性上気道炎(1)
ライノ	A	3			鼻咽頭炎(2)*、喘息性気管支炎(1)
ライノ	B	1			発疹症(1)
ライノ	C		3		肺炎(1)、気管支炎(1)、喘息性気管支炎(1)

※重複感染



奈良県感染症情報

令和元年 第40週(9月30日～10月6日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 9月報(月単位)報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	RSウイルス感染症	4.29	(3.94)	→	→	↓
2	感染性胃腸炎	3.94	(2.97)	↑	→	→
3	A群溶連菌咽頭炎	1.50	(1.21)	↑	↑	↑
4	伝染性紅斑	0.65	(0.21)	↑	→	→
5	咽頭結膜熱	0.56	(0.24)	↑	↑	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆ 県内概況 ◆

RSウイルス感染症が北部地域、中部地域で前週より増加しています。1歳未満の乳児は、急性細気管支炎や肺炎等の重い呼吸器症状を起こすことがあり、呼吸器や心臓に疾患のある高齢者も重症化しやすい、感染に注意が必要です。
 感染性胃腸炎の報告数が、郡山保健所管内及び中和保健所管内西部地域で増加しています。
 また、伝染性紅斑の報告数も増加しています。伝染性紅斑は、妊婦の方が感染すると、胎児の異常や流産を引き起こす場合があるため、感冒様症状のヒトとの接触を避ける等の注意が必要です。
 手洗いの徹底や咳エチケット、物品(おもちゃやコップ等)の消毒を行い、感染を予防してください。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

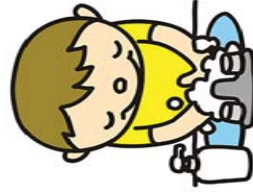
保育園児で熱と咳、鼻汁のRSウイルス感染症と高熱が続き球結膜充血が出てくるアデノウイルス感染症が流行している。高熱、頭痛、嘔吐が1-2日間ある髄膜炎様の感冒が中学生以上でみられる。

中部地区(岡本内科)ともクリニック

RSV、RSV様の咳嗽・喘鳴の例が増加。
 感染性腸炎も流行持続。伝染性紅斑が2例あった。
 インフルエンザはまだ見られない。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

RSウイルス感染症の流行は続いている。入院例も多い。
 インフルエンザは散発しているが大きな流行にはなっていない。
 手足口病、ヘルパンギーナは減少したが、アデノウイルス感染症は時々みられる。
 胃腸炎は増加してきている。マイコプラズマ感染症はない。





奈良県感染症情報

令和元年 第41週 (10月7日～10月13日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- ～インフルエンザに感染しないために～

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	RSウイルス感染症	3.53	(4.29)	↗	↗	↗
2	感染性胃腸炎	3.41	(3.94)	→	↗	↗
3	A群溶連菌咽頭炎	2.03	(1.50)	↗	↗	↗
4	手足口病	0.85	(0.53)	→	→	↘
5	咽頭結膜熱	0.59	(0.56)	↗	↗	↘

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) **増減**: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↘**減少

◆ 県内概況

RSウイルス感染症が引き続き流行しており、特に中和保健所管内で多くなっています。また、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています。例年、11月から12月に患者の報告数が増加するため、今後の流行状況に注意してください。インフルエンザの定点医療機関からの報告数はまだ多くありませんが、奈良市保健所、中和保健所管内で集団感染が発生しています。保健研究センターで検査を行った結果、AH1pdm09型を检出しています。インフルエンザは、小児では急性脳症、高齢者や免疫の低下している方では肺炎等で重症化することがあり、注意が必要です。こまめな手洗いや咳エチケット、規則正しい生活をこころがけ、感染予防に努めましょう。

～インフルエンザに感染しないために～

- ◆ **咳エチケット**
 - ✓ 咳、くしゃみやみが出る時は、他の人につぎさないためにマスクを着用しましょう。マスクを持っていない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて1m以上離れましょう。
 - ✓ 鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受け止め、手はすぐに手を洗いましょ。
 - ✓ 咳をしている人にマスクの着用をお願いします。
- ◆ **流行前の予防接種**
 - ✓ インフルエンザワクチンの予防接種には、発症をある程度抑える効果や、重症化を予防する効果があり、特に高齢者や基礎疾患のある方など、罹患すると重症化する可能性が高い方には効果が高いと考えられます。
- ◆ **感染防止対策**
 - ✓ 外出後の手洗い等
 - ✓ 適度な湿度の保持
 - ✓ 十分な栄養とバランスのとれた栄養摂取
 - ✓ 人混みや繁華街への外出を控える

出典: 首相官邸ホームページ
<https://www.kantei.go.jp/headline/kansensho/influenza.html>
厚生労働省ホームページ
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/influenza/index.html



奈良県感染症情報

令和元年 第42週 (10月14日～10月20日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	RSウイルス感染症	2.56	(3.53)	↗	↗	↘
1	感染性胃腸炎	2.56	(3.41)	→	→	↗
3	A群溶連菌咽頭炎	1.03	(2.03)	↗	↗	↘
4	手足口病	0.62	(0.85)	↗	↗	↘
5	突発性発しん	0.41	(0.38)	↗	↗	↗

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) **増減**: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↘**減少

◆ 県内概況

RSウイルス感染症の報告数は減少しているものの、流行は続いています。引き続き感染予防に努めてください。感染性胃腸炎の報告数は横ばいです。例年、初冬から増加しはじめるかとされており、今後の流行状況に注意が必要です。インフルエンザは、ほぼ全ての保健所で報告がありました。報告数は16件で、前週(10月7日～13日)より増加しています。RSウイルスやインフルエンザは、飛沫感染や接触感染により感染します。手洗いや「咳エチケット」、十分な栄養とバランスのとれた栄養摂取を心がけ、日頃から感染予防に努めましょう。

◆ 小児科外来情報

北部地区(矢温医院)

感染症は幼児のRS以外は目立ったものは無い。伝染性紅斑が増えているが、疾患の性格上必ずしも医療機関を受診するとは限らず、不明である。インフルエンザは修学旅行生等他地区からの方がみられるが、地元の方はみられない。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

RSの流行が持続。咳嗽の姉からの罹患と思われる生後1か月男児の陽性例があった。経過は比較的軽度で外来でFollow。他にRS疑いの喘鳴の強い1歳台乳児が3例続いていた。A群溶血性連鎖球菌陽性例が増加。発熱以外症状が顕著でなく発疹も認めない4歳男児で初診時に両手指皮膚剥離を認めた例があったが、想定される先行感染はなかった。同時に母親37歳も陽性であった。インフルエンザはまだない。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

A型インフルエンザが増加。全体的には散発だが、一部小学校では流行している。RSウイルス感染も続いている。また胃腸炎も増加してきた。伝染性紅斑も多い。夏カゼは減少、マイコプラズマ感染症も多くない。



奈良県感染症情報

令和元年 第43週(10月21日～10月27日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 12月1日は「世界エイズデー」

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	2.56	(2.56)	→	→	↗
2	RSウイルス感染症	2.35	(2.56)	→	↓	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	1.32	(1.03)	→	→	↓
4	伝染性紅斑	0.94	(0.38)	↑	↑↑	↓
5	咽頭結膜熱	0.53	(0.15)	↑	↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています。治療には抗菌剤が有効です。喉の痛みを感じたら、早めに医療機関を受診しましょう。

伝染性紅斑(リンゴ(ほっぺ)病)の報告数も増加しており、県内の報告数は例年より多い状態で推移しています。伝染性紅斑は、両頬にリンゴのような赤い発疹があらわれます。その7～10日前に微熱や風邪様症状がみられることが多い、感染力は、その時期に強くなっていきます。妊婦の方は、感染すると胎児に影響することがあるため、風邪様症状のヒトとの接触を避ける等、感染に注意が必要です。

季節の変わり目の気温差により体調を崩しやすい時期です。手洗い・うがいの徹底や「咳エチケット」による感染予防に努めましょう。



UPDATE! 話そう、HIV/エイズのとなりで～検査・治療・支援～

令和元年12月1日(日曜日)は「世界エイズデー」です。エイズのまん延防止と患者等に対する差別や偏見の解消をめざし、12月1日の「世界エイズデー」を中心に世界各国で啓発活動が展開されます。

治療法の進歩によりHIV陽性者の予後が改善された結果、HIV陽性者は感染の早期把握、治療の早期開始・継続によりエイズの発症を防ぐことができ、HIVに感染していない人と同等の生活を送ることが期待できるようになりました。また、治療を継続して体内のウイルス量が減少すれば、HIVに感染している人から他の人への感染リスクが大きく低下することも確認されています。

多くの人がHIV/エイズに関する正しい知識を身につけ、自分の「となり」にある身近なものとして語り合うことで、検査、治療、支援という具体的な行動につながるよう後押しします。

- APH-Net エイズ予防情報ネット <https://api-net.jp/or.jp/index.html>
- 県疾病対策課「令和元年度「世界エイズデー」について」 <https://www.pref.nara.jp/48706.htm>



奈良県感染症情報

令和元年 第44週(10月28日～11月3日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	4.44	(2.56)	↗	↑	→
2	RSウイルス感染症	1.56	(2.35)	↓	↓	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	1.21	(1.32)	→	→	↓
4	手足口病	0.71	(0.41)	→	→	↑↑
4	伝染性紅斑	0.71	(0.94)	↗	↗	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎の報告は、増加傾向です。例年、秋以降にはノロウイルス胃腸炎が流行します。流行する時期には、症状がある人だけではなく全ての人が調理前や食事前、トイレの後などに石けんと流水を用いた手洗いを心がけてください。

インフルエンザは、全ての保健所から報告がありました。まだインフルエンザのワクチン接種を受けていない方は、早めに接種するようにしましょう。

伝染性紅斑が例年比べて非常に多い状況です。妊婦の方は、感染すると胎児に影響することがあるため、風邪様症状のヒトとの接触を避けるなどの注意が必要です。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢温医院)

外来はインフルエンザ予防接種希望者で混雑していますが、感染症はまだ多くありません。保育園児で手足口病が再び流行しています。熱を伴わない場合が多い印象です。RSウイルス感染症も2才以下でまだみられます。インフルエンザは奈良市在住の方からは見かけません。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

RSの流行が持続。RS様の姉から罹患の生後1か月児の陽性例があった。A群溶血性連鎖球菌陽性例が増加。発熱あり・発疹なしの4歳男児で初診時に両手指皮膚剥離を認めたが想定される先行感染はなかった。同時に母親37歳も陽性であった。感染性腸炎が増加。嘔吐は少なく下痢が主の例が多い。ロタ陰性。水痘がわずかにあった。

インフルエンザ陽性例はまだない。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

A型インフルエンザの流行が拡大している。RSウイルス感染も続いている。胃腸炎の大きな流行はみられていない。マイコプラズマ様の呼吸器疾患は増加してきたが、迅速陽性例は少ない。



奈良県感染症情報

令和元年 第45週(11月4日～11月10日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(10月)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	2.91	(4.44) ↓	→	→	↗
2	伝染性紅斑	1.00	(0.71) ↑	↗	↗	↗
3	RSウイルス感染症	0.94	(1.56) ↓	↓	↓	↗
4	A群溶連菌咽頭炎	0.91	(1.21) ↓	↓	→	↗
5	インフルエンザ	0.56	(0.35) ↑	↗	↗	↗

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

伝染性紅斑の報告数が例年に比べ多くなっています。症状は、10～20日の潜伏期間後に顔に現れる紅い発疹で、続いて手・足に網目状と表現される発疹がみられます。発疹が出現する7～10日前に風邪様症状が見られることが多く、この時期に感染力(ヒトにうつす力)が強くなっています。発疹の出現後はウイルスの排泄はほとんどなくなり感染力もほぼ消失しています。そのため、患者との接触を避けることで予防は難しい感染症です。患者の咳やくしゃみにより飛び散った唾液や鼻水を吸い込んで感染するので、風邪様症状のヒトとの接触を避け、手洗いやうがいなどの基本的な感染予防対策を励行することが大切です。

インフルエンザの報告数がほぼ全ての保健所で増加しました。子どもでは急性脳症、免疫力の低下した高齢者では肺炎を伴うなど重症化することがあります。マスク・手洗い、咳エチケットなどの対策を心がけましょう。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(令和元年10月) ◆ *ウイルス分離同定日での集計結果

検出病原体	検出状況			臨床診断名
	北部	中部	南部	
RS		3		気管支炎(1) RSウイルス感染症・肺炎(1)、肺炎(1)
アデノ	2	1		感染性胃腸炎(1)
アデノ	40/41	2		感染性胃腸炎(1)、アデノ腸炎(1)
コクサッキーA群	6	1		喘息様気管支炎(1)
エコー	30	1		無菌性髄膜炎(1)
バラインフルエンザ	3	1		細気管支炎(1)
サボ	GII	1		感染性胃腸炎(1)
ライノ		2		突発性発疹疑い(1)、感染性胃腸炎(1)
ライノ	A	2		鼻咽頭炎(2)
ライノ	B	1		気管支炎(1)
ライノ	C	2		伝染性紅斑(1)、喘息様気管支炎(1)
ヒトパレコ	3	1		感染性胃腸炎(1)
ヒトヘルペス	6B	1		突発性発疹疑い(1)、発疹性疾患(1)



奈良県感染症情報

令和元年 第46週(11月11日～11月17日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 10月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	4.24	(2.91) ↗	↗	↗	↗
2	A群溶連菌咽頭炎	1.76	(0.91) ↗	↗	↗	↗
3	インフルエンザ	0.87	(0.56) ↗	↗	↗	↗
4	伝染性紅斑	0.79	(1.00) →	→	↗	↗
5	RSウイルス感染症	0.76	(0.94) ↓	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告数が増加しています。第46週では、特に中和保健所管内西部地域で報告数が増え、県内全域ではほぼ全ての年代から報告があります。全国的には流行レベルに達していて、県内でも学校閉鎖が発生しています。まだワクチン接種を受けていない方は早めに接種するようにしましょう。また、流水・石鹸による手洗いを正しい感染予防に努めましょう。

A群溶連菌咽頭炎の報告数が増加しています。症状は、突然の発熱と全身倦怠感、のどの痛みです。学童期に多くみられる感染症で、家庭や学校での集団感染も多いです。有効なワクチンはなく、予防として最も大切なことは患者との濃厚接触を避けることです。治療には抗菌薬が有効です。のどの痛みを感じたら、早めに医療機関を受診しましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢温医院)

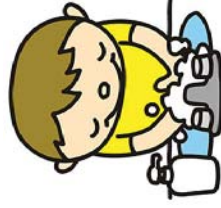
外来はインフルエンザ予防接種希望者と喘息やアレルギー性鼻炎で来院する方が多いが、感染症は多くない状況が続いている。流行期に入ったと報道されているインフルエンザも最近は見られません。RSウイルス感染症が相変わらずみられます。嘔吐と腹痛、下痢の感染性胃腸炎が出てきています。こちらは今後増加するものと思われまます。

中部地区(岡本内科)ともクリニック)

予防接種者と咳嗽の例で外来は多い状況。
咳嗽例が多い。乳児でRS様気管支炎の流行が持続。
手足口病が数例あった。
咽頭で軽度のヘルパンギーナ様所見の例もあった。
他にA群溶血性連鎖球菌、水痘がわずか、
感染性腸炎の流行持続、ロタ、ノロ陽性例はなかった。
インフルエンザAが見られてきた。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザの流行は続いているが、あまり拡大してはいない。RSウイルスも散発的にみられる。ノロウイルス感染様の胃腸炎が増加してきている。
手足口病が再び増加してきたが、今夏大流行したものは別の経路型が多い。





奈良県感染症情報

令和元年 第 47 週 (11 月 18 日 ~ 11 月 24 日)
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザの流行が始まっています

今週の概要

- 海外へ渡航される皆様へ

◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位 5 疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	5.12	(4.24) ↑	↑	→	↑
2	A 群溶連菌咽頭炎	1.74	(1.76) ↗	↗	↗	↑
3	インフルエンザ	1.42	(0.87) ↑↑	↑↑	↑↑	↓
4	伝染性紅斑	1.18	(0.79) ↑	↑	→	↓
5	手足口病	0.44	(0.76) ↓	→	↓	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去 5 週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況

インフルエンザの定点当たり報告数が 1.0 を超えましたので、インフルエンザの流行が始まったとみられます。予防には 1) 流行前のワクチン接種、2) 飛沫感染対策としての咳エチケット、3) 外出後の手洗い等、4) 適度な湿度の保持、5) 十分な栄養とバランスのとれた栄養摂取、6) 人混みや繁華街への外出を控える心がけてください。

伝染性紅斑の報告数が例年より多い状態で推移しています。特に奈良市保健所管内では警報レベルに達しています。妊婦が感染すると、胎児の異常や流産する場合があります。妊婦の方は感冒様症状のヒトとの接触を避けるようにし、注意して下さい。

海外へ渡航される皆様へ

<渡航前>

- これまでに自分が受けた予防接種について、母子手帳などで確認しましょう。
- 渡航先で流行する感染症を調べ、これまで予防接種を受けていないものについては、接種を検討しましょう。
- 渡航先により必要な予防接種は、厚生労働省検疫所「海外渡航のためのワクチン」(<https://www.forth.go.jp/useful/vaccination.html>) で調べることができます。

☆ 海外渡航のための予防接種のお問い合わせ先

- 奈良県立立川大学附属病院感染制御内科海外渡航者外来 0744-22-3051 (代)
- 奈良西部病院 トラベルクリニック 0742-51-8700 (代)

<帰国後>

- 生水・氷・カットフルーツの入ったものを食べることは避けましょう。
- 食事は十分に火の通った信頼できるものを食べましょう。
- 蚊・ダニに刺されないように、服装に注意し、必要があれば虫よけ剤を使用しましょう。
- 動物は狂犬病や鳥インフルエンザなどのウイルスをもちていることがあります。またヒトコブクラダは MERS コロナウイルスを持っていることがあります。むやみに近寄ったり、触らないようにしましょう。
- 薬物やゆきずりの性交渉で感染し、一生の後悔をすることのない行動をとりましょう。

<帰国後>

- 帰国後しばらく (半年程度) は体調に注意し、医療機関を受診する際には、渡航先、滞在期間を伝えましょう。
- 麻疹の症状 (風疹症状や発疹) がある場合には、医療機関を受診する前に、必ず、先に電話で医療機関に相談し、医師の指示に従って受診してください。公共交通機関を利用せず、自家用車などの受診をお願いします。



奈良県感染症情報

令和元年 第 48 週 (11 月 25 日 ~ 12 月 1 日)
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザの流行が始まっています

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位 5 疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	7.12	(5.12) ↑	↗	↑	↗
2	インフルエンザ	2.04	(1.42) ↑↑	↑↑	↑	↗
3	A 群溶連菌咽頭炎	1.85	(1.74) ↗	↗	↗	↑↑
4	RS ウイルス感染症	1.06	(0.32) →	→	→	↑↑
5	伝染性紅斑	0.88	(1.18) →	→	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去 5 週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況

感染性胃腸炎の報告数が増加しています。冬期に流行するノロウイルスに感染すると、症状回復後も一ヶ月ほど、便中にウイルスが排泄され続けます。トイレの後、調理前、おむつの交換後などにはこまめに手洗いを行いましょう。また、高齢者が感染すると、嘔吐物が喉に詰まり、窒息してしまいうちもあるため、注意が必要です。

インフルエンザの報告数が増加しており、今後増加が続くことが予想されます。日頃からマスク・手洗い等の感染予防、咳エチケットによる感染拡大防止を心がけるようにしましょう。また、急な 38 度以上の発熱、咳や喉の痛み、全身の倦怠感を伴うなど、インフルエンザが疑われる症状が出たときは、早めに医療機関を受診するようにしましょう。

◆ 小児科外来情報

北部地区 (矢追医院)

気温の低下でインフルエンザが先週からでてきています。今週は倍増しました。全て A 型で、咳、鼻汁、高熱は例年通りです。嘔吐、腹痛、下痢の感染性胃腸炎はやや増加しました。RS ウイルス感染症も引き続き幼児でみられます。

中部地区 (岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザが増加してきた。すべて A 型。咳嗽少なく発熱は短期で重症の印象はない。感染性腸炎が流行、水様便も多いがロタ陰性、ノロ様もあるが確認例はない。RS 感染症も流行持続、マイコプラズマ肺炎も見られた。A 群溶血性連鎖球菌、水痘、ヘルパンギーナ様咽頭頭見例もあった。

南部地区 (奈良県総合医療センター小児科)

A 型インフルエンザの流行は続いているが、大流行にはなっていない。RS ウイルス感染症の流行も続いている。嘔吐・中心の胃腸炎が増加、ノロウイルスも検出されている。また、手足口病が再び増えてきているが、症状は軽い。



奈良県感染症情報

令和元年 第49週 (12月2日～12月8日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザの流行が始まっています

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(11月)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	7.91	(7.12) ↑	↑	↑	↑
2	インフルエンザ	3.69	(2.04) ↑↑	↑↑	↑↑	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	1.41	(1.85) →	→	→	↑↑
4	伝染性紅斑	1.29	(0.88) ↑	↑	→	↓
5	RSウイルス感染症	0.79	(1.06) →	→	→	↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや流行** **やや流行** **やや流行** **やや流行** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑↑**増加、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告数が増加を続けています。県内全域、ほぼ全ての年代の患者について報告があり、また、まだインフルエンザの予防接種を受けていない方は、早めに接種するようによましよう。また、マスクの着用、帰宅後の手洗いやうがいなど、一般的な感染症予防を行いましよう。

伝染性紅斑(リンゴっぺ病)の報告数が増加しています。感染力(ヒトにうつす力)は、頬に紅い発疹が出現する7～10日ほどの微熱や風邪のような症状などが見られる時期に強くなっています。感染しても、ほとんどの場合は軽い症状ですみますが、妊婦の方は注意が必要です。妊婦の方が感染すると、胎児の異常や流産を引き起こす場合がありますので、風邪のような症状のあるヒトとの接触を避けるようにしてください。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(令和元年11月) ◆

検出病原体	* ウイルス分離同日での集計結果		
	北部	中部	南部
EB		1	
エコー	18	3	
エコー	25	1	
エコー	30	2	
コクサッキーB群	5	1	
単純ヘルペス	1	1	
/ロ	GI-5	1	
ライノ		6	
ライノ	A	2	
ライノ	B	1	

臨床診断名

- 突発性発疹(1)
- 急性扁桃炎(3)
- 感染性胃腸炎(1)、HPeV感染疑い(1)
- 無菌性髄膜炎(2)
- 胃腸炎(1)
- ヘルペス歯肉口内炎(1)
- 感染性胃腸炎(1)
- 上気道炎(1)、ピルシス肺炎(1)、不明熱(1)、気管支炎(1)、急性上気道炎(2)
- 急性鼻咽喉頭炎(1)、気管支炎(1)
- 扁桃炎(1)



奈良県感染症情報

令和元年 第50週 (12月9日～12月15日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザの流行が始まっています

今週の概要

- 小児科外来情報
- 11月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	8.41	(7.91) ↑	↑	↑	↑
2	インフルエンザ	6.64	(3.69) ↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
3	A群溶連菌咽頭炎	2.53	(1.41) ↑	↑	↑	↑↑
4	伝染性紅斑	0.88	(1.29) →	→	→	↓
5	RSウイルス感染症	0.82	(0.79) →	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや流行** **やや流行** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑↑**増加、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告数が増加しています。特に中和保健所西部地域では、定点あたり報告数「12.1」となっており、注意報開始基準値の「10」を上回っています。そのほかの地域についても報告数の増加が続いており、今後県内全域で報告数の増加が予想されます。咳やくしゃみ等の症状があるときは、ティッシュやハンカチで口を覆う、マスクを着用するなど、咳エチケットを徹底しましょう。特に電車や職場、学校など人が多く集まる場所で行うことが大切です。学校保健安全法でインフルエンザは、発症した後(発熱の翌日を1日目として)5日を経過し、かつ、解熱した後2日(幼児は3日)を経過するまで、出席停止期間とされています。抗ウイルス薬により、すぐに軽快しても感染性は残っているため、解熱後もしばらくは外出を控えるなど、医師の指示に従い行動するようにしてください。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢温医院)

外来はインフルエンザ予防接種で混雑していたが、ほぼ終了したので落ち着いてきたが、インフルエンザが小流行してきた。当院では迅速検査で全てA型である。感染性胃腸炎もそろそろ増加してきた。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

インフルエンザが増加してきた。学級閉鎖もあるがまだ大きな流行にはなっていない。症状は軽症の印象。ノロウイルスが増加。短期の嘔吐が主で下痢が少なく頭痛を訴える例が多い。他にA群溶血性連鎖球菌、水痘が流行。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

ノロウイルス胃腸炎が急増。家族内感染も多い。A型インフルエンザは散発。大きな流行にはなっていない。溶連菌感染症は通年的にみられる。RSウイルス感染も続いている。手足口病の小流行はおちついてきた。



奈良県感染症情報

令和元年 第51週 (12月16日～12月22日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザが注意報発令です！

今週の概要

- インフルエンザの施設内感染拡大防止について

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	12.35	(6.64) ↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	10.62	(8.41) ↑	↑	↑	↑
3	A群溶連菌咽頭炎	2.65	(2.53) ↗	→	↗	↑↑
4	伝染性紅斑	1.06	(0.88) →	→	→	↓
5	咽頭結膜熱	0.74	(0.41) ↑	↑↑	↑	↑↑

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの定点あたり報告数が、注意報基準値の「10」を上回りました。中和保健所管内西部地域では、県内でも特に報告数の多い状況が続いています。インフルエンザは、乳幼児や高齢者など、免疫力が低下している方が感染すると、急性脳症や肺炎を伴い重症化することがあります。くしゃみや咳などの症状がある場合は、咳エチケットによる感染拡大防止に努め、乳幼児や高齢者との接触を避けるようにしましょう。また、こまめに手を洗い、十分な睡眠とバランスの良い食事により免疫力を高めておくなど、普段から感染予防を心がけるようにしましょう。

～インフルエンザの施設内感染拡大防止について～

インフルエンザは感染力が非常に強いので、ウイルスが施設内に持ち込まれないようにすることが施設内感染防止の基本です。

- 利用者の健康状態の把握**
65歳以上の高齢者や心臓や腎臓、呼吸器等の慢性疾患の有無について把握しておきましょう。
- 利用者へのワクチン接種および予防の実施**
利用者の日常の健康管理に注意し、咳エチケットやこまめな手洗いなど、一般的な予防に留意しましょう。
- 施設出入りする人の把握と対応**
インフルエンザの流行期は、施設の玄関に掲示を行ったり、家族等にはあらかじめ説明を行ったりするなど、来客者に対して理解を求めめる為の活動が必要となります。
- 施設従業者へのワクチン接種と健康管理**
外部との出入りの機会が多から、施設従業者が最もウイルスを持ち込む可能性が高く、重症化しやすい方々と接する機会が多いことを認識しましょう。
- 施設の衛生の確保、加湿器等の整備**



首相官邸 HP <https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/influenza.html>

参考 URL: 厚生労働省 今冬のインフルエンザ総合対策について <https://www.mhlw.go.jp/hanwa/kankou/infuenza/>

次回週報(52週)は、令和2年1月9日(木)に発行いたします。



奈良県感染症情報

令和元年 第52週 (12月23日～12月29日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザが注意報発令中です！

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	14.76	(12.35) ↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	7.79	(10.62) →	→	→	↘
3	A群溶連菌咽頭炎	1.65	(2.65) →	→	→	↘
4	RSウイルス感染症	1.00	(0.44) ↗	↑↑	→	↑↑
4	伝染性紅斑	1.00	(1.06) →	↘	↑	→

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの定点あたり報告数が増加しています。県内の全域で流行がみられており、特に中和保健所管内西部地域で多く見られます。電車や学校、職場など人が多く集まる場所へ出かける際はマスクを着用し、こまめに手洗いをしましょう。感染予防には、アルコールによる消毒も有効です。また、乾燥しやすい室内では加湿器などで適切な湿度(50～60%)を保つことも効果的です。急に38度以上の発熱が出て、咳やのどの痛み、全身の倦怠感を伴うなどインフルエンザを疑う体調不良を感じたときは、早めに医療機関を受診するよう心がけましょう。

❖ 小児科外来情報 ❖

北部地区(矢追医院)

年末はインフルエンザが大流行にならず穏やかに新年を迎えられました。感染性胃腸炎もやや増加しましたが嘔吐、下痢の症状もひどくなく、伝染性紅斑や手足口病、咽頭結膜熱など季節性の無い病気が多くはありませぬがみられます。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザはまだ散発の状況。すべてA型。症状は短期の発熱のみの軽症例が多い。RS気管支炎が持続。ノロ様の感染性腸炎の流行も持続。ヘルパンギーナ様咽頭、頬、両前腕に丘疹様発疹のコクサッキー(?)ウイルス様と思われる例が数例あった。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

A型インフルエンザが流行してきた。症状は例年と同じで抗ウイルス薬の効果もみられている。またRSウイルス感染症やノロウイルス胃腸炎の流行も続いている。水痘、溶連菌感染症も散見されている。コクサッキーウイルス感染症様の軽症の全身性発疹(小水疱)もみられるが、対症療法で軽快している。

次回週報(1週・2週合併)は、令和2年1月17日(金)に発行いたします。